

関川流域委員会

車座方式住民意見交換会 議事概要集

関川流域

下流

上越市西本町三丁目	．．．．．	1
上越市稲田二丁目	．．．．．	3
上越市島田	．．．．．	6

上中流

妙高市上四ツ屋	．．．．．	9
上越市中郷区板橋	．．．．．	11
上越市板倉区南中島	．．．．．	14
妙高市美守	．．．．．	17
上越市清里区武士	．．．．．	19
妙高市大鹿	．．．．．	21
妙高市杉野沢	．．．．．	23

保倉川流域

下流

上越市春日新田	．．．．．	25
上越市安江2丁目	．．．．．	29
上越市頸城区西福島2	．．．．．	32
上越市頸城区望ヶ丘	．．．．．	35
上越市頸城区榎井	．．．．．	38

上中流

上越市三和区北代	．．．．．	41
上越市浦川原区上岡	．．．．．	45
上越市牧区高尾	．．．．．	47
上越市安塚区真荻平	．．．．．	50
上越市大島区細越	．．．．．	53

関川流域委員会

上越市西本町三丁目自治会意見交換会議事概要

日 時：平成18年6月29日（木）19:00～21:00

場 所：町内会館

出席者：西本町三丁目地区8名

流域委員会：保坂委員、小林委員、横田委員

事務局：松崎河川調査係長、三阪研究員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

自治会長：町内会長は3年目である。この話は2月頃に聞いた。日にち設定でトラブルがあった。一度はこの話を投げたが、再度話しがあったので開催することにした。私自身、この会がどういう会なのか疑問があるが、何かメリットがあればよいと思っている。

住 民：どうしたら喜んでもらえるのか考えている。

住 民：引っ越してきて2年経つ。まだよく分かっていないがよろしく願います。

住 民：町内会で、自主防災の役を仰せつかっている。生まれもここである。世の中が変わってきている。よい話しを聞かせて欲しい。

住 民：突然来て何事か。なんでここに来たのか？こちらにも聞きたいことがあるので、よろしく願います。

(以上、自己紹介)

住 民：突然来て、このような会をやるといっても方向性がわからない。資料が漠然としてよく分からない。事前に資料を配るなど予備知識をある程度良くしてやるべきでないか。そうすれば、腹積もりもあったのに・・・。こっちは迷惑である。

住 民：アンケートをしていたことも知らなかったが、その59ある自治会のうち、河川なしの代表という説明であったが、私からすれば川と海に近い気がする。もっと川に関係がある所で実施するのが、普通のやり方でないかと思う。

委 員：関川流域内で、上流、中流、下流域をまんべんなく、アンケートをとっている。例えば、先週は関川上流の妙高高原まで行ってこのような会を行ったし、来週は保倉川中上流域の浦川原区へ行く予定にしている。また、ご指摘のとおり、水害常襲地帯などの川に関連しているところでも行っている。したがって、河川のない地域も含めて、流域内をまんべんなく対象にしていると理解して頂きたい。

住 民：川に接している町内会の割合は、1/5 であるが、アンケートをしても、役に立つものにならないのではないかと？

委 員：川が近くにないから、アンケートは書きにくかったかもしれないが、そのような方々にも意見を伺った。

住 民：私は関川の河口部や荒川橋をイメージして書いた。天王川も水つきが多かった。アンケートの結果を聞いていたが、天王川をイメージして書いた人が多かったと思う。

委 員：2回水害があったと思うが。

住 民：水つきが2回あった。実際、水つきにあうと恐ろしい。

住 民：アンケート内容が、あいまいな項目が多い。適当に書いたと思う。このような調査を行った趣旨を説明してほしい。子供の頃は、関川で遊んだこともあり、アンケー

トは関川をイメージして書いた。

委員：川のイメージを問う調査方法としては、2種類がある。1つは、スライドや写真、ビデオなどを基に実際の川の様子を見て、川の良し悪しを答えてもらうもの。もう1つは、皆さんの頭の中にある川のイメージを想像して答えてもらうもの。おそらく多くの皆さんは、前者の方法を考えられたのではないか。しかし、後者のような方法もあるので、調査方法は目的によって違うと理解して頂きたい。

委員：流域委員会は、皆さんが懸念されている、治水対策をどうすればよいかということについても考えている。また後ほど話を聞かせて頂きたい。

住民：ここは水害が多い。昭和40年に溢れて直江津駅が浸かった。それ以降は溢れていないが、天王川が溢れている。トヨカト-の方は浸かる。下水工事で日本海に出してもらったが、間に合っていない。

住民：旧直江津市では、ここが一番低い。

住民：2年前に天王川で水害があった。今年の雨でもストレスであった。安心してられない。荒川の出口部が砂で埋まっている。年に何回かわからないが、神輿のつき場は何回か掘ると聞いている。

住民：集中豪雨が原因で水害が起きるが、雨が止むと直ぐに川水が低くなる。

住民：トヨカト-の下に川が入っている。川が淀んでいるし、水位はストレスである。

委員：水害の原因には気象の影響もあるが、都市整備によって変わることもある。この地域の場合、家が近年たくさん建ったということはないか？昔からの問題なのか？

住民：昔からである。海側に砂丘があるため、個々の土地に水が集中する。ここでははききれない。荒川の出口を掘り下げないといけないと思う。

委員：関川に砂が溜まっている。太平洋側までとは言わないが、干潮・満潮によっても違うのではないか？

住民：太平洋側のような干満の差はないが、逆流している。これから、温暖化が進めば危険を感じる。

委員：上越市安江地区もそうであるが、田んぼが団地になり水が吐ききれないようだ。小池委員長も言っているが、土地が低い所は、水害対策が難しいと言っていた。自衛も含めてやらなければいけないのでは。

委員：天王川の河口に排水機場があればよいということでもない。流域全体で考えなければならぬ。上流から下流に水がでないように考えないといけない。

住民：7mの道幅で、工場からの水が歩道にのりあげる。下水の水より多く15cm程ある。下水を広くするのか、道路をひろくするのか、雨が降る度に心配である。

委員：西本町の悩みは上流側の人には知らない。また、上流側では地滑りで大変なところもある。このような問題を流域全体で共有する必要がある。三和区では、桑曾根川にはカーブが多かった。改修して欲しいという声もあったが、真っ直ぐにすれば下流が大変になるという話しもしてきた。

住民：河川無しと分類されているが、被災はある。町内でも土地が高いところ、低いところなど、感じ方も違うと思う。

住民：ぜひ保倉川の分流をお願いしたい。よろしく願います。そうなれば、関川も助かると思う。

事務局：お話はお聞きしました。

以上

関川流域委員会

上越市稲田二丁目自治会意見交換会議事概要

日 時：平成18年4月23日（日）19:00～21:00

場 所：稲田子供の家

出席者：稲田二丁目自治会8名

流域委員会：保坂委員、小林委員、岡森委員、横田委員

事務局：石田調査第一課長、三阪研究員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

自治会長：関川流域委員会で住民にアンケート調査を行い、分析結果を昨年上教大で公表した。また、今回稲田二丁目自治会への調査結果を説明させてほしいということである。より望ましい川の姿の意見交換を行いたい。

住 民：昔から川を使ってきている。

住 民：川に関する関心は高い。水害の経験はない。水泳の出来る水質になれば良いと思う。

住 民：「荒川」は校歌になっていた。小さい頃の思いでは泳いでいた。今のような立派な堤防ができる前は水がついた。今は安心である。

住 民：昔から住んでいる。以前は河川敷に畑があり、2年に1回くらい水に流されていた。稲田小学校のグラウンドは水を一時的にためていた。橋から飛び込んで泳いたが、水面に泡がでてから泳がなくなった。

住 民：昔はよく川砂利を取っていた。川砂利の取った穴で遊んだ。ハヤなど背中が曲がっていた。現在は、ハヤ、コイはいるがフナはいない。7. 11水害の時は、堤防ぎりぎりまで水がきて、とても臭かった。

住 民：以前は関川で遊べた。工業用水取水堰ができて水深が深くなり浅瀬がなくなった。川に近づくなどといったようなイメージである。

住 民：アンケートの項目がありきたりだが、結果は有効に使ってほしい。洪水については大改修が行われ堤防が壊れるとは考えられない。環境整備が進んで喜んでいる。水辺クラブが頑張っているが、一般住民からすると川に親しむ事はない。以前に本流から水を分けて水に親しむ場所を作ってほしいと要望したことがある。阿賀野川にはあった。s 40年頃荒川（現関川）には400本ほどの桜があったが、川の拡幅でなくなった。殺風景である。桜でなくてもいいから植えてほしいが、その木の維持管理を住民でというのは困る。

住 民：他の場所が干ばつでも関川の水が入る田んぼは稲が枯れることはなかった。関川は頸城平野の命綱。ありがたい川である。

（以上、自己紹介）

住 民：この「川の姿」による川幅（アンケート調査結果による川幅のイメージは）は、改修以前の川幅で考えていると思う。

住 民：このアンケート結果をどうやって活かすのか？

委 員：p 15は心理プロセス調査の結果。自分の自治会の特徴や、他の自治会との共通点や相違点を知ることが、調査の目的。意見交換の材料となる。

委 員：今後の対応については、国交省が決める整備計画について住民の意見を伝える。そのため、出来るだけ多くの自治会を知り、特徴のある自治会を掘り下げて意見を聞く。フォーラム、ワークショップに出てもらい、いろんな意見交換をしていきたい。国とやりとりする場があるが、その前に水の基本的な考えを決めなければなら

ない。

- 委員：（パンフレットにより）「知っていること」「行っている事」のギャップをなくす。その為、知識を増やし、意識を高めてもらう。被災回数が多いところは知識が高い。流域全体で共有できるのではと考えている。
- 委員：フナは川底に穴に集まるが、改修でそのようなところが無くなった。宅地化されてきれいな湧き水も出なくなった。河川敷だけみても、水質や生態系の問題は解決しない。安全の為の三面護岸は見直しの時期にきているが、いっぺんには直せない。稲田のように生活と川が密着したところからどうか。棚田とか森林とか流域全体を考えていかなければならないというのが、流域委員会である。
- 委員：水質は40年前の川に戻してほしい。工業用水堰のあたりでヘドロが溜まっている。御輿下りの時、2年くらい前に掘った。魚道はサギのえさ場になっていて、地元は無駄だと思っている。地元の人をよく見に行っている。排水溝の水を利用しての魚道で水が少ない。
- 住民：魚道は専門家の話を聞かないとダメ
- 住民：川は生命と財産を守ることが一番。H7に水害があった。上流は改修が進んだ。過去の水害なら、どこまで水位が上がるのか情報を提供してもらおうと助かる。
- 委員：過去の出水の情報を基に、治水計画を作っている。川の流量は雨量により流出解析によって求める。過去のデータなら公開されているので、ご覧になって頂きたい。なお、現在これらのデータを基に、基本方針を作成中である。
- 住民：堤防を高くした為、鴨島が水に浸かるようになった。
- 住民：東本町は排水ポンプがついた。鴨島にもポンプがつけば水がつかなくなる。
- 住民：笹ヶ峰ダムが水を出すと1時間で水がくると言われている。
- 住民：雨の量で、どのくらいの水位になるかわかるといい。
- 住民：水害があるなら、環境ではなく、治水であろう。
- 住民：昔から住んでいる人は、関川の水が溢れても水のつかない所に住んでいる。
- 委員：絶対安全なところはない。200年に一度の雨が降るかもしれない。どこまでの部分を許容できるか？危機感を共有できるか？自分たちは安全だと思わないでもらいたい。
- 住民：以前の河川改修の時に、100年に1回の洪水には大丈夫だと理解してしまった。
- 委員：公共事業は減ってきている。でも整備は行って行かなければならない。水害防止が第一であるが、住民からは環境整備してほしいという意見がでてくる。たとえば高水敷の整備や木を植えて管理してほしいというような要望もある。その中で流域内の調整をしていかないといけない。直江津はここと違って高水敷も無い。地域ごとに特徴があって、いろいろな意見が出てくる。
- 委員：稲田二丁目はp23で下水処理が十分でないと思われるのはなぜか？
- 住民：稲田は下水道が整備されていなく、関川か用水に排水を流している。
- 住民：下水道事業が終わったらどのくらい水質が良くなるか、シミュレーションを公開してほしい。
- 委員：南中島では下水道が共用されていた。南中島の人には下水道が十分と思っていない。それは下水道処理水が流れ込むし、他のところから排水が入ってくる。水を汚している原因は生活排水である。下水処理で水質は100%では無いがきれいになるが、以前にくらべて洗剤を大量に使い、それが流れ出てくる。やってもらえばかりでなく、自分たちでなにかをしていかないといけない。
- 住民：国交省は宮下用水の排水口に炭をいれて浄化しようとしたがあれは失敗だ。
- 委員：川は本来、浄化能力は高い。それにはゆっくりとした流れでないとダメである。
- 住民：ここは工業用水堰があるので、流れない。灯籠流しをしても上流に向かって進んでしまう。
- 委員：今までの話の中で、昔はフナとコイがいて、最近コイはいるけどフナはいなくな

ったとのことだが、フナは汚れた水の中に住む魚。フナがいなくなったのは水がきれいになったのでは。

委員：産卵場所がなくなった。

住民：砂利原がなくなった。

住民：水路のコンクリート化が原因では？

住民：最近メダカは増えてきた。

住民：魚の住んでいる川は人の関心を引くのでは。

住民：水辺クラブで関川に化石林があるということをPRしてもらえれば、川に来るのでは。

委員：p 29 これからの予定の説明。見学会、ワークショップを計画している。子供も参加してもらい実施したい。参加をお願いしたい。

以 上

関川流域委員会 上越市島田自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年4月11日（火）19:00～21:00

場 所：島田会館

出席者：島田町内会8人

流域委員会：梅澤委員、小林委員、岡森委員、横田委員、保坂委員

事務局：石田調査第一課長、本田技官、三阪研究員

意見交換

町内会長：町内会長、各出席者より挨拶。町内会としての川辺に対する要望（事前にFAX）について、地域の声をあげさせてもらった。

住 民：和田小は矢代川でさけの稚魚の放流を行っているが関川では行われぬ。関川は汚れているのではないか。以前に水質調査を見かけた。水質について教えてほしい。

住 民：川底が高くよく水害にあった。

住 民：よく川で遊んだ。ヨシキリ、蛍、ヨシ・アシ、魚など沢山いた。7.11災害復旧工事後の生態系が狂ったのか、今はいない。立派な川になったが、環境がなくなった。

住 民：魚道があるが、魚が関川からあがらない。

住 民：昔に近い川がいい。ヨシ、浮き草は水を浄化していた。環境が失われている。でも、現代生活で、治水も欲しいとは思っている。

住 民：7.11災害復旧の工事に携わった。復旧の仕方を見ると親しめない方法もある。低水路の雑木など今では手ははっていない。多自然復旧が全てよかったか疑問だ。

住 民：子どもの頃、田んぼでナマズ、魚をつかみとった。できたら、そういう魚があがってくる川になってほしい。治水も大事だけど、楽しみもほしい。

住 民：小学校の頃、川で遊んだ。水銀の影響か、川で魚釣りする人も少ない。川辺でスキーもした。島田の近くの川には、あまり親しみがなくとも。犬の散歩ができればいいかなと思う。

（以上、自己紹介）

委 員：ここまでの話で、過去に水害（近年では3回）うけていて、名前も「島田」という地名。島田地区の下流では矢代川、別所川、櫛池川が合流する地域である。とくに昔から水害にあっている地域なのだろうと思う。しかし、アンケートの結果では、「川は安全だ」側の評価となっている。堤防が無かったときはどうであったのか。

住 民：近年の3回の水害の中で、特に7.11の被害は大きかった。その後の災害復旧事業で、堤防が高くなり、川幅が広くなり、改修で良くなったといった印象が強く、実際、その後水害を受けていない。その結果、川は安全だという評価になっていると思われる。昔は、自宅の木を町内会に提供して、木流し等として堤防を守った記憶もある。

住 民：災害復旧工事の結果、高水敷が広がったが、以前に比べ河に近づけなくなっており、実際のところ、魚がいるかどうか、樹木が少ないか、現状を知っている人が少ないと思う。広場が広いと評価するのも、災害復旧事業で高水敷が広がっているからだ。高水敷に草も生えており、除草もされていないので、学校等の教材としても利用できない。

住 民：水害前の状態と、現状は、逆だと思う。昔は、水際に安全なところもあったし、危

険なところもあった。今は治水上安全とはいうが、流れが速く「怖い」と感じる。今でもナマズ、コイは大きいやつがいると思うが、近づかないので「魚がない」と感じているのではないか。孫と釣りにいっても怖くて水際までは近づかない。

委員：淵や、よどみがないということですね。

住民：そういうことだ。川で子供を遊ばせて子守をするということが非常に難しい。

住民：消防団として、7.11災害時に水防活動したが、どこでも堤防が決壊していた。非常に危ない思いをした。この周辺は、月岡で決壊があったおかげで、堤防決壊にはいたらず、水が流れ込んできただけで助かった。田んぼを水が流れ込んできたくらいで、一部の低地にある家が浸水しただけだった。田んぼが助けてくれたという思いがある。

住民：島田地区は、「利水」として、関川に接している思いが強い。上流の工業排水により、水質が悪いといったイメージがある。昔は、あえて関川へ行くことはなく、支川の矢代川、古川で遊ぶことが多かったが、現在は、三面張り護岸で今は行くことも少ない。

委員：この地区は上流に大きな工場があり、工業排水により、川が汚れているといったイメージが強いと思われる。しかし、日本トップ10にはいる程とはいわないが、一時期と比べ、水質が改善されている。アンケート結果に下水対策が不十分であるといった結果がでてるように、生活排水が大きい。白田切の天然水銀のこともあり、関川漁協も全面漁はしていない。稚魚の放流も行われているが、支流での放流にとどまっているのが現状だろう。

住民：関川では、工業用水堰には魚道などあるが、支川では魚道が不足している。本川が治水上近づけないので、支川だけでも親しめるようにして欲しい。

住民：子供の頃、奇形の魚などよく見かけた。そのころは、「変わった魚がいるな。」程度の認識だった。量は少ないが食べたこともあった。また、現在では矢代川に残るだけだが、昔、関川にも霞堤があり出水時には、よく見に行った。そこには魚が沢山にいて、主にアユなどを採ったものだった。出水時は、静かにゆっくり田んぼに水が入っていった。稲なども水につかることはあっても、倒れることは少なかった。そういう知恵を取り入れて欲しい。

委員：近年、気候が変わってきている。集中豪雨などが増えており、日当たり最大降雨量も1,000mm/日だったものが、四国で1,100mm/日に塗り替えられるなど、局地的な集中豪雨がある。そんな状況の中で、堤防が出来たからといって安心しないでほしい。昔のような整備の知恵の見直しも必要だろう。防災方法、水防活動、つまり防災力の向上も大事だと思う。

住民：この地域は、堤防に囲まれている。中に流れてきた水の出口は、古川の一つだけだ。その中で水辺プラザ（実際にはさらに上流の県施工区間合流地点）での盛土など、流入する水を受け入れるはずのボリュームを冒している。

住民：7:11災害時には、当時の市長が堤防をきって水を逃がした。以前からの申し合わせ事項かもしれない。島田は、いわば袋の底だ。矢代川と関川の合流点であり、地区に入る水の出口は古川一つである。

委員：水防活動では、どのような活動をしているのでしょうか。

住民：改修後は、出水時に堤防を見に行くことは少なくなった。主に台風時の見回りが多い。

委員：水害を受けるごとに知識・関心・行動が高くなる。島田は、近年3回の水害を経験してはいるが、特に治水の知識が高いのは？

住民：7.11以前は、決壊しないまでも、堤防防衛等の対応（木流し）を行っていた。その影響で昔の記憶が残っているのだと思う。

- 委員：地区での水防活動の記憶や、技術は若い世代に受け継がれているのでしょうか。そういった活動はしておられるのでしょうか。
- 住民：7.11以前は、水防倉庫もあり、堤防には霞堤が残っており水防活動していた。7.11後も水防訓練はしている。
- 委員：年に1回は、上越市で大規模な訓練を行っている。来月27日には姫川で大規模な水防演習を予定している。地域の方に呼びかけを行っているが、参加される方は少ない。
- 委員：水防活動など、なかなか若い世代の参加が少ない。治水対策が進んでも先ほどの話のように気候が変化しているので水防活動はなくてはならない。現状で治水安全度が1/30、それが100年に1回に対応できる1/100となったとしても、完全に安全とはいえない。防災活動、防災力をいかに高めていくかが大事だ。
- 住民：十ヶ字用水（土地改良区）の堰をみると、実に立派なものできている。しかし、実際の災害時に水位が上がったときに、堰の操作ができるのか。どうやってあげるのか。どういう対応をするのか、住民に情報がなく、全くわからない。情報がないから、不安だ。
- 委員：それがまさに「わかっているけど、できない。」ということだと思う。問題は実によく把握しているが、行動はできていない。調べることは案外簡単だと思う。
- 委員：今回の意見交換会で上流地域も行っているが、棚田などの治水上重要だとみなさんが思っているものは、中山間地の方が整備している。一方、利水関係は、水が少ないなど下流に影響を与えている。そのような上流・中流・下流がつながっていることなどそれぞれの地域でお互い理解を深めることを目的に流域委員会は活動している。また、地域のみなさんは、川への思い、こうしたいと思う事について、積極的に関わっていく姿勢をもっていただきたい。稲田地区は、河川敷の利用を地域で活発におこなっている。我々流域委員はそういった地域の要望、思いをまとめて今後の基本方針つくりに向けて提言していきたいと考えている。
- 住民：河川敷に桜を植えてもいいのか。要望すればいいのか。花魁道中などできないものか。
- 事務局：河川法で許可が必要となる。ただし、堤防をきづつけない事が条件であるから、通常の堤防に桜を植えるというのは許可がおりない。第一に堤防守ることが河川管理者の役目である。ただし、堤防を余分に盛土して堤防を傷つけない対策を行い植えているところはある。分水町の桜をイメージされているのだと思ひ話をした。

以 上

関川流域委員会 妙高市上四ツ屋自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年3月21日（火）15:00～16:30

場 所：上四ツ屋公民館

出席者：上四ツ屋自治会23人

流域委員会：小池委員長、梅澤委員、小林委員、岡森委員、横田委員、見田委員、保坂委員

事務局：二木調査第一課長、山本河川調査係長、三阪研究員

意見交換

- 住 民：生活排水が流れていないのできれい。使った水は田んぼに回している。
- 委員長：P20は、地域の方々が水がきれいだと思う人と、汚いと思っておられる両方の方がおられるので矢印が出ている。
- 住 民：私たちは、川があまりに身近すぎるので、なんとも思わなくなっているのだろう。
- 委 員：昔と今では水質はどうか。
- 住 民：昔はきれいだった。川で遊んだ。今は遊べない。水が少ない。
- 委員長：水が少ないということが、好ましい、好ましくないということに深く影響しているように思う。
-
- 住 民：子供の頃はプールが無かったので川で遊んだ。ハヤ、アユ、カジカ、マスまでいた。
- 住 民：冬は矢代大橋の上が雪捨て場になっていて、水が走る（溲筋ができる）こともある。矢代川は季節季節で変化があるが、夏場は水がほしい。
- 住 民：H6年の湧水の際は、水が無く、消雪用井戸水を田んぼに回した。
- 住 民：夏場水がほしいと思っても、農業もあるのですぐには水を増やせない。この難問がこの地域には大きな問題である。
-
- 住 民：結果について喜んで良いのか、悲しんで良いのかと感じた。
- 委員長：喜んで良い。流域を引っ張って行ってほしい。
- 住 民：昔と今の魚の量が少なくなったのは、用水の取り口がコンクリート製になり、きっちり水を取られてしまうことがあると思う。
- 住 民：魚の住める水量が確保すると聞いておるが、諦め状態である。しかし、一定の水量が必要であると期待したい。
- 住 民：環境を考えると、魚の棲める水量くらいは確保したい。
- 住 民：必要以上の水を取っているのではないか。
- 住 民：雪ダムはなぜやめたか。
- 委員長：雪崩をおこすためには、ガス砲による爆発が必要で、その場所に人がいないか、その安全管理ができていくこと、夏まで雪をためておけるかの計算をした結果、費用対効果の点で、難しく見合わせられた。
- 住 民：今は水が絶対的に足りないのではないか。妙高市の飲料用取水口もあり、水が無くなる。
- 委員長：国内と外国の事例。静岡の大井川では、発電ダムができることで水が流れなくなったが、魚のために水を流す取り決めを行い、水を流している。中国黄河は水の少ない河である。中国は利水協定などないため、必要となれば、人はどこからでも水を

取ってしまうので、途中から水は無くなってしまふ。そこで国は水をとるなど決めて水を流した。中国は国の力が強いのでこのようなことができる。皆さんは、知恵を出し合い昔の清流を取り戻すことを考えてほしい。

住 民：最近環境・気候の問題があるが、水量は増えているのか。

委員長：近年の特徴として3つのことがある。

- 1．日本全体水量は減っている。洪水と渇水の差が大きくなっている。洪水の時の水量は緩やかに増えているが、渇水期の水量はどんどん少なくなっている。
- 2．台風などが多くなっている。
- 3．同じような梅雨前線に伴う集中豪雨が多くなっている。

以 上

**関川流域委員会
上越市中郷区板橋自治会意見交換会議事概要**

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年4月8日(土)9:00~11:00

場 所：板橋ふれあいセンター

出席者：板橋自治会：9人

流域委員会：小林委員、保坂委員

事 務 局：石田調査第一課長、松崎河川調査係長、三阪研究員

意見交換

自治会長：昨年のフォーラムに3名参加した。

住 民：野菜どころであり、5月初めに野菜の直売を行っている。

住 民：片貝川、渋江川は過去に災害があったかもしれないが、大規模な水害経験はない。

住 民：(流域委員会のアンケート説明会、フォーラム等)1回目は出席しなかったが、2回目は出席した。星野知子の名で出た。

住 民：雪解け水の水がつくときがある。

住 民：自治会内の住民は、子ども会、青年会、すみれ会、長生会、老人会などのいずれかの会に入っている。

住 民：7.11水害の時は怖い思いをした。農業用水の堤防を乗り越えそうだった。農業用水の河川から取り込む所で問題をかかえている。

(以上、自己紹介)

委 員：どこの川をイメージして回答したか

住 民：渋江川

委 員：ここまでの感想をお願いしたい。

住 民：集落の中に、大きな川が流れていない。渋江川は集落から離れた所で用水(農業)のみだけなので、アンケート結果は土地がらの違いではないのか?

委 員：宅地の被害はないが、アンケート結果から平成7年(7.11出水)に被災歴があると書かれている。

住 民：その時の被害は農業用水であり、堤防が切れた。それを知っている人は意識しているが、そうでない人はアンケート結果に反映されない。

委 員：配付資料P20で、外観環境(第一印象)から「判断」に行くと地域毎で違ってくる。交差しているところを注目している。現在の公共事業の予算が圧迫している中、住民と合意できることが、流域委員会に求められているのではないか。方向性は同じである。板橋自治区は災害に対する意識は低いが、その他地域で棚田の水管理を上流で実施している。その結果、下流域の人は被害を受けにくいのではないかと感じた。流域内で板橋の役割、「用水の管理」が重要になってくるのではないか。

住 民：田を持っている人だけでないか。水害で農地に水が上がったのは何度かある。補助事業で整備された経緯もあるが、我々の世代以下の人は知らない人がいる。アンケートの結果も違ってくるのではないか。

委 員：用水の管理はどのようにしているのか。

住 民：配付資料P27にも現れているが、こちらでの水の苦労は文化として次世代に伝える必要があると思う。我々の世代の60才位までだが、昔は水が出れば、何とか農地を守らなければいけないという感覚でいる。次の世代の人は、当たり前のように思っ

いる。川の管理は大変であり、徹夜して、交代で見張っていたものだ。次の世代はあまり意識がない。その他、水不足で田に水が回らなかった。この地域では不足の方を考えている。

- 住 民：上流に雨が降ったらすぐに水が出てくる。止むと引く。もっと上流域の問題もある。
- 住 民：板橋の川は、農業用水のための川であり、親しみのためではない。昭和30年頃は魚取りをたくさんしたが、今は癒しの部分は感じていない。魚取りの遊びも今では誰も教えない。昔は先輩に連れられてよく遊んだもんだ。
- 委 員：昨年フォーラムでも、「よい子は川に行ってはいけません」というような話しもあった。
- 住 民：川と水で遊べる場所があればよいが。板橋は、ダイセルの水源地があり、昔は一日中遊んだものだ。昭和30年の前半は、アユ、カジカも沢山いた。昭和35年から40年頃にはフナが増えた。水質が変わってしまったのではないか。ウグイも減った。遊べる川になれば良いと思う。昔はウグイが産卵で沸いたようになったことがある。
- 住 民：上流に「ニッソウ」、下流に「ダイセル」(工場) 中間に板橋となっており、昔は大変な騒ぎをしている。訴訟問題もあった。それは、前の世代が苦労しているので、厳しく我々に話しをしてきた歴史がある。
- 委 員：お話を聞くと「水」で大変ご苦労をされている。

- 住 民：川との関わりは、農業用水だけである。田んぼを持っている人は60%になり、それ以外の人は関係ないのではないか。関心がなければ色々な整備は進まないのではないか。
- 委 員：水利権は、昭和39年で利水ができて改正となった。流域委員会では、環境面から考えた場合、必要水は流さなければならないと考えている。この地区の人は、色々な会に所属していると聞いたが、アンケート結果での積極性は少ないが、今日の話しを聞いて、意見のまとまりがあると思っている。上流域に話しをするのもよいのではないか。板橋の地域で水がきれいになる。下流域にとっても良いことである。これが、流域全体の話しとなる。
- 住 民：川に蛍をはなしたらどうかと話しをしたことがあるが、水質が良くないとのこと。蛍がいれば、子供、大人も川に近づきやすいのではないか。フォーラムに参加して、国が何をやりたいのか何となくわかった。これからは、川をきれいにしないと生き物が育たない。昔は沢山蛍がいた。改修してからいなくなった。川に親しみやすいだけでなく、何かしなくてはいけないのではないか。
- 委 員：日本には109の一級水系の河川がある。それらの河川すべてで河川整備基本方針を決めることになった。関川の場合も、今年度、または来年度中には決まるはずである。基本方針が決まると、河川整備計画を立てなければならない。関川の場合、北陸地方整備局ですぐ整備計画を立てなければならない。流域委員会では、この秋(9月)くらいまでに住民サイドの水に対する基本的な考え方をまとめて整備計画に提言をしていきたい。渋江川などの支川を含め、今後どうやっていくのが良いのか、色々のご意見を頂いていきたい。

- 住 民：行政の立場で聞きたいが、農業用水の取水口のところが老朽化してきている。自分たちもお金をだしながら補修していきたいと考えている。護岸整備がなされていないところがあるので、それについて護岸整備をしてもらいたいと旧中郷村に陳情している。役場は災害が起きないと整備できないとのこと。どうしたらよいものか。
- 委 員：そのような意見を集約して整備計画に盛り込みたいと思っている。
- 委 員：地域の今までの用水の取り組みについて上越市にお話されるのが良いと思う。

- 区 長：今日は始めて聞いた。幅広くやっている感じがした。地域によって意識が違う。川は大事なので、いい方向にってもらいた。
- 住 民：孫の代に繋げたい。参加していない人に呼びかけるのは我々の仕事。行動の問題である。魚・虫・化学工場・少ない農薬など考えているばかりではダメ。知識を得て行動したい。
- 住 民：将来のために、魚、昆虫の住む川に近づけたい。関心を持ちたい。
- 住 民：広い視野で考えないといけない。
- 住 民：水をきれいにすること。
- 住 民：いろいろと問題はあるが、次の世代がどうするかなので、川の問題であるが、川の問題でもない地域全体の話である。
- 住 民：関心がなかったので、関心を持つ。
- 委 員：若い世代の意見も取り入れてやっていきたい。今後もよろしく願います。

以 上

関川流域委員会 上越市板倉区南中島自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年4月22日（土）18:30～20:30

場 所：南中島ふれあいセンター

出席者：南中島自治会12人

上越市板倉区総合事務所：産業建設グループ 建設農村整備班長 関間（門に壬）

流域委員会：梅澤委員、岡森委員、横田委員、保坂委員

事 務 局：本田技官

意見交換

町内会長：（町内会長、各出席者より挨拶）平成19年米政策改革「環境保全型農業」の取組と川づくりが一体化できればとのお話。

委 員：ここまでの話で、過去に水害を受けているが、河川整備が行き届いたのか結果的に「防災」より「親水」が大事という結果になっている。これについて意見をいただきたい。

住 民：特に7.11の後の大改修の影響で、堤防ができたことによる結果だと思う。

住 民：改修して立派な堤防がこの辺りにもできた。しかし、7.11当時は、上流の方で堤防がきれ、こちらに水が入ってきた。上流へ実際に見に行ったりもしないので、切れた箇所がどんな対策をしているかも、わからないし、この周辺だけを見れば、治水がしっかりしているという印象を持っているのだと思う。ところで、水質については、昔は、工場から水銀が流れている等の話もきいたが、現在はいちはやく下水道が整備されている。水質は、実際によくなっているのか？

委 員：P.22を見てもわかるように、水質の悪化の要因として、工場排水のイメージを強く感じておられるようだ。過去に工場からの排水があったことによるイメージが残っているのだと思われる。今現在は、法の規制もあり工場排水からの水質汚染は大きな要因となっていない。この周辺は、下水道整備が進んでいるが全体としては、まだ普及率は低く、生活排水の影響が大きいのが現状である。10年前、関川は、BODワースト5に数えられたこともあった。その頃に比べれば、まだ充分でないにしろ、水質は良くなっている。

住 民：このアンケートには矛盾があると思う。改修で、堤防を高くする→触れ合いが少ない。堤外地に広場がない→イベントがない。当たり前の結果だ。改修で、安全になったが触れ合いにくい川になった。川に近づけなければ、関心もないはずである。7.11前後では、大きく川に対する印象が違う。

委 員：確かにイベント・広場があることによって、川への関心・知識をつくることにつながると考える。

住 民：川に親しみましようといっているが、堤防の中に広場があるところが少ない。上流（妙高あたり）はまだ多い方だが、下流は少ない。堤外地内は、草だらけで、階段があったところで、危険だ。広場があっても草が生えていて、危ない事の方が多い。

住 民：私は、島田あたりまで孫と釣りにいく。サギがいて、魚がとれることを教えてくれる。親しめれば、川に関心もできる。私の子どもの頃はアユとりなどして遊んだ。もっと広場、親しめる環境があることが大事だ。

住 民：昨年のフォーラムでの説明でもあったが、出前講座などを活用して、川に関心をもってもらおうようにしていきたい。また、世代の交流をもって若い世代に受け継いでいくことも必要だと考えている。

委員：確かに今までの河川整備では、治水優先で、環境・親水が漏れていた。これからは、法の目的に環境も加わった。今までの治水のための整備は専門家がいて整備をしてこれた。が、それに加えて環境も整備するということだ。みなさんの知恵を借りながら整備をしていくことになる。

また、アンケートの結果から、川の広場や水辺のイベントがある→川と触れ合える→好ましいと考えることがわかった。皆さんのおっしゃるとおり、広場の整備、親しめる環境の整備をすることで、川に対する感じ方は変わってくると思う。

住民：関川の水は、本当にきれいになっているのか。

委員：見た目の汚さと、水質的な汚さがある。保倉川などは、砂で濁っている。平成6年には、濁水があった。そのときは、希釈する水量が少なく水質が非常に悪かった。その後濁水が一度もないが、今後同じような濁水があったとき、当時と比べて水質がどうなっているかがわかる。

ただし、上下水道の整備や、近年の住民の方の意識の向上などによって対策が進んでいる反面、大量の水を使う文化、生活様式になってきており、環境負荷は、減っているとはいえない。その中でも改善してきているとはいえる。

住民：人口が多くなれば、工場排水、下水道が整備されても川が汚れる可能性があることは理解した。では、もうひとつ、ダム（堰）などには、ちゃんと魚道がついているのか。

委員：関川の工業用水堰には、魚道があるが、そこから上流にはない。

（訂正：上流の頭首工などには、魚道がある施設もあります。）

住民：川のみやす、環境のみやすは、川にどれだけ魚が住んでいるかではないか。魚が住んでいることが大事。国の政策が間違っているのではないか。

住民：実際に自然環境だけなら、川へいかななくても別の場所がある。

住民：川に魚がいなくなった。たしかに昔はカラス貝などもたくさんいた。今そういったものはいない。川の水を流すことが優先で、淵などが無い。

委員：たしかに昔の川は、淵、瀬があり多様な形状をもっていた。

住民：生き物の住む川をつくる。それは、いい。しかし、環境を整備しても管理は誰がするのか。

住民：改修で川の中が広がったのはいいが、木が育っている。倒れたりするものもある。川のイメージも悪いし、管理が心配。

住民：川の浄化ということで砂利をいれたり、木を植えたりした。しかし、それで、中州ができ、治水上の問題もある。治水と親水でバランス良く、行政の横の連携もしっかりして、住民と国との調整役を流域委員会にお願いしたい。

委員：前回伺った西福島では、改修後、昔に比べて雨が降ると一気に水がくるようになったとお話があった。これも河川整備の影響。三和区では、桑曾根川、曲がりくねっている川の話聞いた。あの周辺では、土砂は流れてくるし、木も流される。その中で、川をまっすぐにして水を流すようにすると下流に大きな被害がでるとの話をした。これからは、関川について、流域全体で考え、その上でこの地域はどのような川にしたら良いのか検討して行かなければならないと考えている。

住民：まさしく、7.11改修後は、行動していない。

住民：改修後は、水害に対して安心感をもっている。しかし、7.11の時切れた上流の堤防（二子島下流）は改修後でも、まだ低い。見る機会も少ない。

住民：過去の経験を伝えないといけないと感じている。そういう活動も大事だ。私は、子どもをつれて、月岡の記念館など（※月岡防災ステーション）に連れていくなどしている。

委員：川の安全を大事にしながら、環境で町づくりしていきたい。是非、声をかけあって

見学会などに参加していただきたい。

委員：先ほどの川の管理について、地域の川の管理は住民が考える時代になってきている。環境整備など、いろいろな選択肢があるなかで、いろいろ話あっていきたいと考えている。

以 上

関川流域委員会 妙高市美守町内会意見交換会議事概要

日 時：平成18年6月9日（金）19:30～21:30

場 所：美守町内会館

出席者：美守町内会（1丁目、2丁目、3丁目） 46名

流域委員会：保坂委員、小林委員、岡森委員、高岡委員

事務局：石田河川調査第一課長、三阪研究員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

住 民：H7.7.11の水害はなんであったのか？笹ヶ峰ダムが欠陥ダムだからではないか？

委 員：水害の原因としては、自然的条件と社会的条件とがある。自然的条件としては、雨量が非常に多かったことがあり、社会的条件としては、河川整備が十分ではなかったことや、水害のあう場所に人が住み始めたなどの理由がある。昔から住んでいる人は自然堤防の上など、比較的安全な土地に住んでいるので被害は少なかったのではないか。

住 民：美守は人の住む場所でない。

住 民：水害の前は河川整備がされていなかった。子供の頃、川には大きな石がごろごろあった。もっと早く川底をさらってればこんな事にならなかったと思う。

委 員：先程の笹ヶ峰ダムの話だが、笹ヶ峰ダムは農業用の利水ダムであり、水害対策用ではない。治水ダムは普段水を貯めていないが、利水ダムは水を貯めている。ダムが決壊しないように水を流すことがあるが、それは入って来た水を出すだけであり、ダムがあったために被害が大きくなるという話とは別である。

委 員：H7.7.11水害はひどかった。その事がアンケート結果にでている。

委 員：河川整備はされたが、この先絶対大丈夫とは言えない。H16の三条では7.11の時より雨が多く降っている。

住 民：白田切川はいつも濁っている。赤倉温泉が汚れているのでは？

委 員：赤倉温泉街には下水処理場がある。

住 民：うちの町内では、下水道が整備されたのに接続していない家がある。

住 民：千曲川の事を記事で読んだ時に、国と県で管理が分かれているとなっていたが？

委 員：千曲川も関川も一級河川であり、基本的に国が管理している。しかし、一級河川でも国の直轄区間と県管理区間とがある。関川の場合、河口から島田の下流辺りまでが国の直轄区間である。

住 民：新保橋あたりの右岸川に木が多い。管理が悪い。

委 員：川を正面に据えて、川に関心を持っていくのは今の時代は大切である。河川法が改正されて意見を聞くというのは、関心を持ってほしいという事だと思う。

住 民：県には管理してほしいと言っている。

委 員：自然が良いという人がいる。花壇をつくって芝を植えてほしいという人もいる。できるだけ、自然を残してもいいのではないかと思う。

住 民：それは程度の問題である。左岸はきれいなのに右岸はダメだ。3日間洪水にあった者としては我慢できない。

委 員：湾曲していたり、川幅の狭いところに護岸をするというような事もある。

住 民：7.11では恐ろしい思いをしている。

住 民：ニセアカシアなど最近外来種が目立つ。千曲川ではニセアカシアを柳に変えようとしているニュースを見た。

委 員：昔は崩れそうな所にニセアカシアの種をまいた。

- 住 民：東北電力が斜面にニセアカシアの種をまいた。ニセアカシアは10年で大きくなる。
- 住 民：河川の汚水とのかねあいであろうが、毎年の調査結果で魚が食べられないのはなぜか？昨今の事件で、川で子供を遊ばせることが出来ないような世の中になってきた。水辺に近寄ると言われている。今日情勢が変わってきており、これにあった整備が必要では？
- 委 員：川に親しめる空間を作り川に親んでもらうことで、川に対する関心が高くなるというアンケート結果になっている。川が安全だという回答は少ない。川に親しめる川づくりが大切だと思う。水質については、S40頃は背骨の曲がった魚がいたが、今は少なくなってきたようだ。以前は工場排水が汚染の一番の原因であったが、今は家庭排水である。白田切川からは天然水銀が出る。一年性の魚は食べても良いが、多年魚はダメとのことである。
- 住 民：魚がいない。どうしてこうなったのか？
- 住 民：美守三丁目のみなさんはどういう人たちがアンケート調査に答えたのか。年代別では傾向が違うと思う。
- 委 員：パンフレットに回答者の内訳がある。今回は50代、60代の世帯主が多かった。20代、30代の回答者は少なかったので、指摘の年代別の傾向分析は今後の課題である。
- 住 民：7.11水害の後立派な川になった。地域の住民として「美守水辺公園を愛する会」を造って草取りとかをしている。これが「良い川」として全体を上げていると思う。地域の皆さんが犠牲を払って、草取りをしているのに、堤防の草が多い。どんな管理をしているのか？
- 委 員：河川管理者が河川管理を行うが、公園は市などが管理している。流域委員ではなく、私の所属している組織の代表の立場で答えると、昔と今の川は違う。川を自分の庭のように整備できない。住宅の側は地域の人たちで優先順位をつけて整備していったらどうか。ここは流域の中でも最も整備されている。住民の運動として、そういう目標もあるのではないか？治水が最優先であるが、このような事も大切である。このような調整が流域委員会の役目だと思う。今後フォーラムを開いたりして子供の意見を聞きたいと思っている。
- 委 員：いろいろな町内がある。この町内の先進的な事例をみなさんに伝えていかなければならない。
- 委 員：P29の説明。流域の交流の場を持ちたいと思っている。若い人たちにも参加してもらいたい。
- 住 民：市とか行政が来ていなかったのが残念である。水辺公園の管理は大変である。看板がない。マナーを守れという看板がほしい。

以 上

アンケート調査は美守3丁目を中心に実施。
意見交換会は美守町内会（1丁目、2丁目、3丁目）で実施。

関川流域委員会 上越市清里区武士自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年6月10日(土) 19:00~20:00

場 所：武士集会所

出席者：武士自治会7人

流域委員会：梅澤委員、岡森委員、保坂委員、横田委員

事務局：石田河川調査第一課長、三阪研究員、本田技官

意見交換

自治会長：関川とは、あまり近くなく関心が高くないかもしれないが、木田の水害、新井の水害などを知っており一時的には関心をもつこともある。しかし、直接の被害がないのですぐに忘れてしまう。今日は、思ったように意見をいっていただきたい。

住 民：水質については、上流はきれい。下流は汚い。上流は水がきれいだというイメージがある。別所川もきれいだと感じる。魚も棲めるし、害はないのだろうが、下流は汚いと思う。ここはきれいだ。

住 民：武士地区の住民が思う近くの川とは、どこだろうか。櫛池川や近くの用水だろうか。今は用水も水があるが、渇水時期にはほとんど流れていない。

住 民：平成15年に、関川上流から下水道処理事業が進んでいる。ここはきれいなんだという思いがアンケートに出ている。櫛池川流域全体は、下水道工事が終わっている。

住 民：櫛池川の支川 清滝川では、昔はブナ林があったが、ブナを切って杉林になっている。冬には雪で倒れている。山本来の姿に戻すことによって川の水もよくなると思う。

委 員：旧清里村には4箇所、処理場がある。そういったことで、半分の方が、きれいだと思っているのだろう。

住 民：魚はいるが、本当にきれいなのか。

委 員：下水処理は6割強の方は十分と答えているが、川の水質は安全であるが4割である。生活排水は処理されているが、農業排水がみなさまの頭の中にあるのではないだろうか。農業には除草剤等も使っているため、農業排水による川の水への影響もある。杉林については、十分な手入れがされていないからだろうか。手入れのされていない杉林は、かなりある。

住 民：植林はしたけど手入れがされていない。冬に杉が倒れる。本来は杉が育つような場所ではない。

住 民：河川の管理について伺いたい。去年の吉川地区のような、局所的な雨が最近多くみられる。そんな中で、私は、流木が川を塞いでいるのを見かける。すぐに除去する必要があるのではないか。近くの雁平川は、雨が降ると一気に水がでる。地域、ボランティアで雑木伐採をしていかなければいけないと考えている。

委 員：河川の木については堤防の内側と外側で分けて考える必要がある。堤防の内側の木については、ご指摘のように流木が橋げたにひっかかり川をふさぐこともあるので、除去する必要がある。危険なものは取り除く必要があるでしょう。ただし、現地を見ていないので、すぐに伐採を行うといった、はっきりした発言ではないと理解して頂きたい。

委員：流域全体で考えないといけないことがある。北代では、桑曾根川がものすごく蛇行している。水を流すために、まっすぐにしてくれという意見があるが、まっすぐにすると今度は、下流に水がはやく集まって、下流の人たちが困るといった話になった。今までは、治水観点で川づくりをしてきたが、流域全体で考えた時に、どうなのか考えていきたい。川の中の樹木だって流れに、環境に良い影響を与えるかもしれない。これから50年先くらいの川の姿をイメージして考えていかないといけないと考えている。

住民：昨年、環境にやさしい川づくりか、なにかという名前で、粗朶沈床が施工されていた。あれは、どういったものだろうか。

事務局：あれは、粗朶沈床とは似ているが、木工沈床というものである。木（杉の間伐材）と石を組み合わせた根固め工で、小魚や小さい生物、カニなど生態系にやさしい工法である。工法自体は新しいものではなく、古くから伝わる伝統工法を採用したものである。

以 上

関川流域委員会 妙高市大鹿地区自治会意見交換会議事概要

日 時：平成18年7月3日（月） 18:30～20:30
会 場：大鹿克雪管理センター
出席者：大鹿地区9人

流域委員会：小林委員、岡森委員、保坂委員、横田委員
事 務 局：本田技官、三阪研究委員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

- 住 民：ここら辺は、ご覧のように山間地であり、川というより、山の話から流域を考えていただきたいと思う。
- 住 民：7.11水害後の改修で、治水に関しては良くなったなぁという思いがある。
- 住 民：私は市議員という立場上、いろいろと議会活動をしてきた。内水面漁業組合とお付き合いがあり、前月には、会合に出席してきた。アユなど釣りもしないが、遊漁券なども買っている。
- 住 民：関川について要望したいことがある。あとで時間があれば話したいと思う。
- 住 民：7.11水害のときには、田んぼが流される被害にあった。川については関心がある。
(以上、自己紹介)
- 住 民：私たちの地区には、3つの川（関川、小袴川、土路川）があるが、関川が一番の中心だと思う。子どもの頃、親しみがあつた。当時はプールもなく、川の淵で泳いだりした。カジカとりなどした。しかし、7.11水害後の改修で、ガラッと様相が変わってしまった。川には淵がなくなり、カジカ、ハヤもいなくなった。今は、7月になると大きいアユを放流している。非常に昔と変わってしまった。今は子どもの川遊びは禁止している。川の水がはやく危ない。治水上はよくなった。田んぼの被害くらいはあるかもしれないが、住居には心配していない。河川敷は広がった。
- 委 員：大鹿さんの川のイメージはどこだろうか。
- 住 民：土路川のイメージではないか。大鹿全体だと関川が主流だと思う。
- 住 民：土路川は昔、ハヤが産卵でたくさん昇ってきた。子どもの頃は、手づかみしたものだ。小袴川も同様だった。マスもいた。昔、祖父が投網でとっていたが、上流のダム建設でとれなくなり、補証で畑をもらったりもした。今は魚がいない。昔は体操の時間という、関川で泳いだり、今はプールで泳ぐ。昔は川で楽しめた。トマト、スイカをもってきて食べた。今は川に対して親しみがもてない。治水上は問題がないと思う。7.11の時は、田んぼが流されて被害を受けた。
- 委 員：同じようなことを、やはり、他の地区でもいわれた。ハヤが産卵時に赤くなり、手でつかめたという話。中郷地区であっただろうか。今は、川にいても魚がいないので楽しくないと言っていた。島田地区では、7.11前は孫といっしょに川に釣りにいった。改修後は、流れがはやく、危なくて孫達、子どもを近づけられない。釣りをしても、自分だけが水辺で、子どもは堤防の上だというお話だった。
- 住 民：7.11後の改修の特徴的なものは、島田橋、地震滝橋だ。
- 住 民：妙高中央橋の下の水辺に、芝をはって「魚影」の一里塚もたっている。
- 住 民：7.11水害から11年近くたって、いまでは、少し石が動いたり、淵ができたりして自然な様子になってきている。
- 住 民：河川公園の管理道路については、現在、一昨年に土砂崩れで埋まったまま管理され

ていない。市を通じてお願いしている。ここは妙高高原までいける道であり、せめて車で通れるようにしてほしい。川へ行かないと川に親しみはもてない。そのためにも管理道路を完全なものにしてほしい。

- 住 民：若い人で、ヤマメの卵をふ化させて、放流しているグループがある。実費でそういう活動に取り組んでいる人たちもいる。卵は六日町かどこかで購入しているらしい。
- 住 民：そういう人達もいるので、管理道路の整備でもっと親しみをもてるのではないか。
- 住 民：7.11後、少しは自然がもどってきていると感じる。魚も見るようになってきた。
- 委 員：昔は、住民の方で、草刈りなどをして、川の面倒を見ていらっしやっただろう。だからこそ、親しみがあつたのではないか？
- 住 民：若い頃は、年に2回はしていた。草の生える状況によって、随時草を刈っていた。
- 住 民：昔は川原の石を使って自分たちの通る道をつくったりしていた。今は、石は工事に使用され、管理道路もできたが、その分、道路が通れなくなると、自分たちで道をつくる手段もない。
- 委 員：私達にとって、直接管理道路をどうにかしろというのは難しいが、このような課題があることはわかった。是非みなさんも、別の機会でも、そのことを強くPRしていただきたい。
- 委 員：意見交換会で伺った地区の中で、美守で、このようなお話を伺った。最初は、川辺を自分たちで草刈りを行って管理してきた。県が草をかくてくれないので、県の部分も自分達で行ってきた。自分たちの管理している河川敷がきれいなので、いまでは、対岸の草が気になってなんとかならないかと言っていた。美守の方は、自分たちが川を管理しているという強い自負をもっておられた。

委 員：見学会など、この周辺が実に良いような気がする。

住 民：川の見学会では、土路川、小袴川の合流点なども見ていただければ、おもしろいと思う。

住 民：最近、このあたりでも高齢化が進んでいる。土路川から用水をひいて田んぼをやっていたが、洪水で流されたりして、それっきり田んぼをやめる方もおられる。そうすると、川に対する関心がなくなってしまう。

委 員：小袴川、土路川などが、この地区に流れている。小袴川は、上流が大規模開発、ゴルフ場などが整備されている。土路川は、農業用水として利用されているが、もともと土壌がながれやすい川で、名前のとおり、濁ることが多い。昔に比べて、小袴川、土路川などの支川の状況はどうだろうか。また、上流の森林の状況はどうだろうか。

住 民：小袴川は、上流にアパのピンバレーがある。短い川なので、降ると一気に水がでる。夏場になると逆に水がなくなる。昔に比べると水量が少なくなった。

委 員：上流に調整池ができたため、確かに水は少なくなったのだろう。

住 民：昔は、小袴川も魚がたくさんいた。

住 民：上流の環境がかわった。下水処理場もできた。水がきれいになったとは思わない。

以 上

関川流域委員会 妙高市杉野沢地区意見交換会議事概要

日時：平成18年6月22日（木）19:00～21:00

場所：杉野沢総合センター

出席者：杉野沢地区6人

流域委員会：梅澤委員、岡森委員、横田委員、保坂委員

事務局：本田技官、三阪研究委員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

住 民：今日は杉野沢役員の総務委員会の会合を直前までしていた。主に土木、消防関係、教育関係の担当役員である。小谷沢と書いてあるが、こちらは杉野沢である。小谷沢は杉野沢の13ある地区のひとつだ。私は、魚釣りが好きで、よくやる。この当たりの関川は7.11水害後の改修でよくなったが、この区の昔の川の姿を知るものにはがっかりするような川になった。

住 民：委員会のことを今回はじめて知った。話を伺いたい。

住 民：私は、子どもの頃直江津に住んでいたので、水害の経験はある。下流では大きな魚がつかれるので、釣りをしたりしたが、こちらは溪流釣りで、大きな魚もいないので、釣りはしていない。直江津にいたもので、こちらとの違い、ギャップなどについては、わかっているつもりなので、いろいろ話を伺って意見を言いたい。住 民：私は東北電力で働いていたこともある。7.11水害時のこの辺の状況は知っている。環境はよくなり、親水公園化されたが、水が出たときが心配。上流に笹ヶ峰ダムなど発電用ダムがあるため水位の変動が激しく、子どもの川遊びへの安全面での配慮が欲しい。

（以上、自己紹介）

委 員：ここまでの説明で、みなさんの意見を伺いたいと思います。

住 民：この資料を見ると小谷沢が対象になっているが、アンケートの対象者は、どこだろうか。

委 員：アンケートは、当時の自治会長さんから世帯主の方をお願いした。お願いしたのは、杉野沢の小谷沢、西町、池田、中村地区であった。

住 民：小谷沢は、杉野沢の12ある地区のうちの一つ。そう考えるとアンケートの結果にも納得ができる。

住 民：アンケートの結果で特徴としてでていますが、

1) 川に木がない。以前は川辺に林がうっそうとしていた。7.11水害後の激特で川に木がなくなり、大きな石も砕いて、まったく以前の面影のない、住民にすれば、非常にがっかりするような川の姿になった。川の地域によって思いがある。今は、発電、灌漑で川の水が使われており、水位の変動が激しい。子どもの安全が心配だ。水質に関しては、下水道の整備が遅れている。下水道事業を地域で要望しているところで、やっと行政も重い腰を上げてくれそう。ここは地区面積が大きく、戸数が少ないため、下水道整備に関する個人負担がどうしても大きくなってしまふ。上流域での下水道整備は、流域全体のためだと思ってほしい。関川流域委員会を通して、全体で考えていただければ、うれしい。

委 員：下水道が進んでないことを危惧しておられる。色々な対策があるし、考えていかないといけないと思う。水がきれい、水質は良いと思っておられるが、下水道整備が進んでいないばかりに、自分たちが下流の水質に影響を与えていると思われる

るようだ。本来なら、上流の川は自然浄化する川、親しみやすい川だと思う。家庭からの排水については、川にだしていると思うが、夏場はさらに強く感じるのではないだろうか。

住 民：特に、小さい河川（用水）でそういう思いが強い。

委 員：7.11水害後の改修についてだが、ここは多自然型川づくりによって先進的に整備された。7.11水害は95年だが、97年の河川法改正前に環境に配慮した工事を行ったという点では、当時としては先進的な事例といえる。しかし、ご指摘のあったように、現在の観点から見るとそれが最善であったとはいきれない面もある。現在も含めて環境に配慮した河川整備については過渡期にあると理解して頂きたい。

住 民：洪水についていえば、川の水がサーッと流れていくので、この辺は助かっている。

委 員：以前は、治水最優先で、川の直線化が図られていた。しかし、現在は川本来の姿を活かすということから、蛇行や自然環境を保全しながらの改修となってきた。

委 員：今回の杉野沢地区と同じように、伺った別の地区、島田地区では、7.11水害後の河川改修で立派な川になったが、昔と違ってゴーゴーと川の水が流れ、近づきにくくなった。昔は川遊びをしたが、いまは、子ども、孫に川に行くなという。というお話があった。

住 民：私の家は、川の近く。川から離れると丸い昔の川原の石が残っている。70から80cmくらいの石。昔は20mくらいの幅の川が、ながれる道を変えながら蛇行していた。改修後でも、多少は変化し、蛇行している。

委 員：本来、川は蛇行するし、流路も変わる。しかし、それでは人が生活しにくいということで、川を固定することを通じて住める場所を広げてきた。人と川との関係は、川の蛇行などの自然作用との闘いである。

委 員：子どもの遊びに対して、川の水位が心配とあったが？

住 民：ダムの放流などの注意喚起とか、子どもに対してない。親水公園化されてはいるが、注意喚起するものがない。

住 民：地区の子どもは川にいかない。川でキャンプしたり、イベントを行っているのは、他所からくる人、子ども達だ。長野県の人、海より近いので、よく訪れる。地元の子は、他所の学校のピオトープなどへ行って遊んだりしている。

住 民：水力発電の運転によって水位の変化が激しい。川幅も小さい。水門は自動化されている。

住 民：アンケートの頃は役員をしておらず、アンケート調査をしたことも知らない。どの地区に話をしたのか。

委 員：当時の小谷沢の区長さんをお願いして、実施していただいた。

住 民：小谷沢は、話によると1000年前くらいに妙高山が崩れて、残ったところだという。昔から災害の無かったところだが、川の水、治水については、詳しい。我々は他の地区のものであり、小谷沢とは、特色が違う。

委 員：この付近にはスキー場や温泉などが多いが、リゾートなどでこちらに住んでいる方は、多いのか。

住 民：リゾートに住んでいる人は少ない。住んでいる人の中には、何世代も前から住んでいる方もいる。

住 民：P15の知識があり、関心があるのに行動しない結果になっているが、これは小谷沢の人は、昔から水害について、川をよく見に行ったりしており、非常に詳しく、また、昔から災害に遭っていないことを知っているの、特別逃げたりもしないからだと思う。

以 上

※アンケート調査は杉野沢区の小谷沢、西町、池田、中村地区を中心に実施。

※意見交換会は杉野沢区で実施。

関川流域委員会 上越市春日新田自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年4月21日（金）19:00～20:45

場 所：青年会館

出席者：春日新田自治会8人

流域委員会：小池委員長、梅澤委員、岡森委員、小林委員、保坂委員

事務局：石田河川調査第一課長、三阪研究員

意見交換

自治会長：関川水系のいろいろなことについて、町内と意見交換会を開きたいという申し入れがあった。今日は8名の参加で町内の理事から集まってもらった。関川東雲環境整備計画というのがあり、6回ほど会議があつて、労災病院周辺の環境整備について、意見を出し合った。アンケート結果についても住民に説明した。7.11フォーラムにはこの町内から4人参加した（本日出席者では3名）。川に関してはまったくわからないのでよろしくお願ひしたい。

自治会長：ボート不法係留については、昨年解決して頂いた。平成17年10月町内で会合をしたとき、高田出張所長が来られ、ゴミの不法投棄や堤防横の側溝修繕のための視察をしていただいた。そして、国土交通省より、河川敷の不法投棄、ホームタンクからの油の流出を河川への流出前での防止についての注意を呼びかけて欲しいと要請があつた。

住 民：戸野目川の縁に住んでいる。子供の時から水害に遭っている。昭和20年床上1.5mくらいの浸水があり、炊き出しなどをボートで行った。昭和40年は直江津の駅前が水浸しになった。平成7年の7.11水害は床下に入った程度であつた。今の家は1.5mくらいあげた。小町団地は常襲地帯で、雨が降ると寝ないで橋のそばから、川を見ている。この辺の水害は、じわじわ水が上がってくる水害なので、家財は片付けられる。

住 民：小町団地に住む。7.11水害では、床上浸水であつた。10年に1回は水がつく。7.11から10年が経つのでもうそろそろかと思う。高い堤防を作ってもらったので川からの浸水は安心している。現在は雨の後、三ッ橋などから水が寄ってくる。県が左内橋から下の堤防の管理をしてほしいということなので、管理をしている。

住 民：一級河川と二級河川のちがい、国直轄と県委託のちがいについて教えてほしい。係留してはいけないと上越土木事務所で看板が出されている。不法係留は長野県が6割である。雨が降ったからといって、すぐには飛んでこれない。やっと強制執行したが遅い。支川が氾濫する。田が無くなってきたのでその水がこちらにくる。

住 民：国道350号の工事のとき移ってきた。水つきがわかっていたので、家を建てるときは、気をつけて、石垣の下あたりまでの水つき程度である。田舎の川は都会よりきれいなはずである。関川はカヌーをこいだりしているが、あまり川との行き来がない。川で遊べるようなことがあれば良いと思う。

住 民：資料を見ると、法律は治水、利水、環境に変わってきているが、この地域の関心は治水である。昔の集落は水害のない所に住んでいた。新しい団地は水害に遭う。地球温暖化で集中豪雨があると聞いている。春日新田は、治水を考えていかなければならない。保倉川の分流も考えなければならないが、利害があるので難しい。利水は中江用水など、農業に係わるのが主なものである。都会の川は川辺が整備されている。ここは自然のままである。これから整備をしていくつもりなのか。

住 民：水害の無いところから来た。ここに来て水つきに遭った。改修もされたが大丈夫か。
住 民：昭和40年後は表からの水害は無くなったが、神社の裏の用水が、水が落ち着いたところ水が上がってくる。排水がないので、樋門の管理が問題である。7.11水害の時、夜2回くらい樋門を見回った。樋門を開けられずカッターで切るかなどと話した。
(以上、自己紹介)

委員長： 一級・二級河川のちがいと国直轄と県委託：川は元々は地元が管理していた。川に関する法は日本は世界に先駆けて作られた。そのときの法律(旧河川法)では、通常は県が管理し、難しいものは国が管理することになっていた。昭和39年に河川法が改正され、一級河川は国が管理することになったが、一部区間については県に委託することになった。国が管理するものは、都市を大災害から守ることやダムを管理するなど大がかりなものは国が管理することとした。それ以外は県が管理することとなった。大規模な工事を伴うものは国、地元と話し合いながらする川は県が管理する。二級河川は、国が半分、県が半分の補助事業で行う。昨年、県知事会が、それを全部県に欲しいと言った。結局財源の委譲は無かった。財源を移管して県が管理していった方が良いのか今後の問題である。

団地ができ、田んぼが無くなったところから水が来る。人が増えてきたので、水害のあるところでも住むようになった。都市を考える行政は川に関心がない。河川管理者は川だけを考えている。田は低いので水は流れる。保倉川は江戸時代に付け替えられ、その影響もある。昔は舟運があった。水量を確保するために保倉川を掘った。比較的安全な所に昔の人は選んで住んでいた。都市が膨張していった中で土地を選べなくなった。

不法係留：駅前の自転車の違法駐輪と同じである。財産権があり、勝手に捨てられない。昔は勝手に自転車を駐輪しても問題なかった。人口の増加に伴い、現在は大きな社会問題になっている。それで対応の仕方として、駐輪場をつくる。マリーナをつくる。全員が駐輪場に駐輪するかといえば、しない。地道な努力がいる。昨年不法係留について、強制執行をして良いか問い合わせがきた。ここまで努力してきたのだから良いだろうと了解した。

低い所の樋管、樋門について、勝手にくさりを切らないこと。平らな所の水の動きは複雑である。土地の高さを1mピッチくらいに測らないとわからない。現段階では測ることは不可能である。レーダーで測る試みが行われ始めた。樋管、樋門を開けることでかえって被害を大きくすることがある。

住 民：住民とすれば、戸野目川の水位が下がっているのに、樋門を開けないということの問題にしている。

委員長：樋門は市が管理しているのだが、効果的に動くようにすることが大切。このようなことで、裁判になったことがある。市の瑕疵という話もあった。

委 員：海の満潮なども影響するのではないか。

委員長：満潮や台風の時、水位が上がる。海の状況も考えないといけない。この自治会は知識が高い、行動していることが良くわかった。全体を話ながら、春日新田の話をしたい。

住 民：親戚が千曲川の近くにいる。千曲川は河川敷にマレットゴルフ場などがあり、気軽に2時間ばかり遊ぶことができる。みんな楽しんでいる。こちらは河川敷に土砂が貯まり遊べない。昔は水が良い悪い関係なく、水泳し水遊びした。今は川に入ると汚染されているから危ないという。千曲川の河川敷は広い。この近辺より良い。関川もそのような計画があるというがどうなっているか。

委員長：川には自然状態として個性がある。：保倉川の水は濁っている。濁っているのが

自然の川である。粘土層なので、平素濁っている。日本人は特殊で川は澄んでいるのが普通と思っている。濁っていてもきれいな川はある。戸野目川は濁っていてもきれいである。東京の川は澄んでいるが窒素やリンがたまっていて汚い。自然によって川はちがう。

人によりちがう：7.11より昨年で10年。フォーラムを行った中で、斐太南小の発表があった。夏になると水が無くなる。カジカは棲めなくなる。カジカに水を返そうと行動した。農業用水に使っているから水が無いのである。人と川との関係である。人と川がこれまでどのようにつきあってきたかという歴史がある。6.11フォーラムのとき、星野知子さんは「よい子は川で遊ばない」と言われて育ったと言っていた。なぜ遊ばないのか。水質が悪いからである。現在は生活排水により汚れている。一人一人が気を付ける。水質が良くなれば、よい子は川で遊ぶか。それでもみんなは遊ばない。川の管理が影響している。明治になり、県が管理していたのを昭和39年国が管理するようになった。皆さんも仕事が忙しくなった。川は国が管理しているので、住民は川から離れていった。子供がおぼれると国が悪いことになる。よい子は遊ばないでということになった。昔はみんな危ない所を知っていた。先輩から教えてもらっていた。自然と人のつきあいを見ながら、どのような川にしたら良いか誰が考えるか。河川法改正により、みんなで考えることとなった。河川法を知っているのはどれだけか。正解率は3%である。100人聞いて3人しか知らない。春日新田でも知らない。流域委員会でも国交省が案をつくり、それに答えれば良いと思っていた。そうではない。

P29の説明：ものを見て話し合うしかない。意見をかわして合意をする。見学会を行う。次世代を担う人も入れたい。話し合いは子供と言うわけにはいけないので、若手から入ってもらい話し合い、合意をする努力をする。このようなことをお伝えしたい。

住 民：みなさんと話したいというが、話しても駄目である。災害、事故があって初めてする。今まで、行政はそんな機会など持ってくれないし、住民も持っていく術もない。計画があるから、意見を聞かせてほしいというと言うが、進んで住民からは行かない。

委員長：今までは役所は自ら聞こうとしなかった。昭和の終わり頃、このままではいけないと思うようになった。お役人は予算が減らされるのが一番効く。平成元年ころ、道路・住宅は予算が増えたが河川は増えなかった。アメリカの外圧でそのようになった。河川局は死活問題となった。河川局は考えた。河川に関して、全部俺たちは知っている、任しておけと言うことで河川整備をしてきた。住民の意見を聞いてこなかったと考えた。それから 住民の意見を聞く 環境も考えようということになった。行政は変わったが、住民はそのことを知らなかった。流域委員会のことも知らなかった。現在アンケート調査を行った。これからである。自治会の方々からある種運動を巻き起こしてもらいたい。

住 民：国・県はお互い顔色を見ている。本当のコミュニケーションを取っていない。横のつながりを取っていない。たらい回しにされる。

委員長：日本にはいろいろな行政法があるが、環境が目的に加わったのは河川法がトップである。河川法に環境が加わったことから、森林法、農地法などにも目的に環境が加わった。しかし、他の法律にはまだないことである、住民の意見を聞くと言うことが河川法には入っている。河川法は法のトップランナーである。行政を変えていくトップランナーである。私はいろいろな会合に加わり体制は変わってきていると思っている。しかし、普通の人にはわからない。成功例がでるとみんなわかるし、動く。住民の意見を聞いて整備計画をたてるということの成功例は、日本にはまだ一つもない。関川流域は日本の中のトップになる可能性がある。今後の教科書になる可能性がある。住民が主役であるという先進事例である。春日新田は流域を引っ張って

いってほしい。それが春日新田を安全にする道でもある。

委員：意見交換は3月から行っており、全箇所参加している。参加していただいている人はしっかりした人ばかりである。上流では地滑りを心配し、見回りしている。中流では水がないことを心配し、昔に比べ、生き物がいなくなった、魅力が無くなったとの意見がある。下流では洪水や、排水の話が多い。流域全体の事がわかってきた。新しいことが出来ればと思う。

委員：西福島と比べると同じ傾向のデータであった。7.11の時、消防団として出勤した。そのとき保倉川から逆流している樋管があったが、どこの管理かわからなかった。県の管理であった為、市役所ではわからなく、床下浸水した。西福島では、澄んではいなかったが、きれいな水だったとの話を聞いた。同じ保倉川下流で似ている状況である。同じ共通した悩みを併せて良い川づくりに活かせると思う。皆さんの考えを委員会に教えてほしい。

委員：保倉川は水はきれいだった。棚田が崩れ農地があれてきたから濁っていると思う。桑曾根川では堤防を強くするのに木を植えたが、洪水になると流れ出る。生活排水はもとより、白田切の水銀も化学で何とかならないか。水辺で遊べる、川辺でゆったりする場がないなどみなさんの意見を反映させていきたい。

委員：ゴミひろいをしている。いろいろ流れてくる。昔は湧き水があった。川に人間の悪い生活すべてが出てきている。意見交換をしながら、支川の支川まできれいにしていかなければならないと考える。下流がひどい事を、上流、中流に言って行かなければいけない。河川区域、川の中だけでなく、上流部の支川を良くするだけでなく、川を離れて、農地とか下水道の問題になる。いろいろ考えて行かなければならない。

委員長：良い相談をさせていただいた。いろいろなグループの人と、意見交換をする場を設ける。参加してほしい。

以 上

関川流域委員会 上越市安江2丁目自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年4月5日（水）19:00～21:00

場 所：子どもの家

出席者：安江二丁目自治会15人

流域委員会：小池委員長、小林、岡森、横田、保坂

事務局：石田調査第一課長、本田係員、三阪研究員

意見交換

町内会長：アンケート調査結果に基づく意見交換会を行う。この地域は水がすぐ溜まる。水害の苦い経験を受けている地域である。水害にならないようにしたいと考えている。

委員長：ここまでの感想をお願いしたい。平素の活動と調査のちがいはないか。水防活動はどうか。

住 民：町内の活動より、行政の指導がないと思っている。指導支援が少ないと思う。

住 民：一町内では、どのようにしたら良いかわからない。行政から教えてもらいたい。隣接町内会といっしょにやる方法もあれば教えてほしいと思う。

委 員：消防団組織では年最低2回水防訓練を行っている。それは総合訓練で、各町内単位ではしていない。隔年で姫川、関川でもしている。本年は来月姫川で行う。そこまで、住民の方々が参加してくださるのは少ない。

委員長：出張訓練をしたほうが良いのでしょうか。

委 員：今後の課題としたい。

住 民：行政への不満だと考える。縦のつながりはあるが、横の連携がないように思う。

事務局：国土交通省では、流域全体を見ながら防災対策を行っている。消防団とも相談しながら、冊子を配ったりと広報活動を行っている。

住 民：この地域には常襲地帯があるので、そこを支援して欲しい。去年あたり上越市で総合訓練がおこなわれていたが、水防に対するものではなかった。

住 民：上越地域が水害と言うときは安江が水害にあうくらい水害常襲地である。それとは別に、笹ヶ峰ダムの放水があっても水がつくのではないか。その情報がないのだが。それらの情報がほしい。行政は横のつながりが無いように思う。

委員長：河川管理者にはすべての情報が入る。それが市等まで伝わっていない場合がある。的確に情報が流れるようにしなければならない。笹ヶ峰ダムの放水はこの地域はほとんど影響ないと考える。

住 民：あるのでは。

委員長：この地域は、川の水があふれて水害にあうのではない。本来なら堤防に守られている側から水が川にはけなくなり、水があふれる。内水害という。その場合、ポンプではき出すということをするが、保倉川、関川の水が多いと水がはけない。

住 民：関川の水が多くなると、保倉川がはけない。そうすると、戸野目川がはけなくなり、浸水する。そのような動きの情報がほしい。

委員長：水害になるのは、ここの土地柄である。上流のダムの放水がどれだけ下流に影響するかは、考えにくい。笹ヶ峰ダムの集水区域は小さい。流域全体に降った水から比べると影響は少ない。この地域は水害対策の難しい所である。他の地域と比べ、この地域の特徴が顕著なことが、P13から明かになる。

住 民：戸野目川期成同盟会の書類である。面川（おもいがわ）をH15支川としてもらった。

住 民：バイパスができてから余計水害になっているような気がする。

住 民：7.11の時、面川が役に立たなかった。バイパスを越えて水がきた。

委員長：河川の下流は海の水位で決まる。上流は、流れてくる水の量で水位が決まるが、下流は、下流の条件で水位が決まる。支川をいくら改修しても、効果的に水害が減ることにつながらない。土地が低いので、土地を通して水が流れてくる。川の水がここに流れ込んでいるのではないと考える。

面川、戸野目川の改修効果は、計算式があるので出せるが、ここはその効果を出すには難しい所である。まっすぐにしたり、堤防を高くしたり、川幅を広くしても解決しにくい。水防活動が大切になる。新潟県では、7.13水害があった。その時福井でもあった。梅雨前線が新潟にちょうどかかるようになっている。このような状況が近年の10年のうちに4回もあった。現在そのような集中豪雨がひんぱんに起こるようになっている。降りそうな気象を危ないと感じる必要がある。水に浸かったらどうするという活動が必要である。低い土地で大きな川のあるところの抜本的対策は難しい。

バイパスも出来たが、ジャスコなどショッピングセンターが出来ると今までの田んぼとちがって、保水能力がなく、それが低い所に流れることも影響している。水害に対して、地元を強くする事が大切である。

住 民：保倉川の分流はどうなった。

委員長：抜本的な解決方法の一つに放水路はある。流域委員会でも意見が出されているが、国の方針が出ていないので討議していない。反対運動も知っている。水害を受けていないのに、町内が分断させられるなどの理由で反対をしている。それぞれの地域の意識の違いをうめる活動をしたい。

住 民：市や県に面川を戸野目川の支川にして欲しいと頼んでいた。支川になれば、改修の見通しが出る。平成15年、戸野目川の支川になった。戸野目川の大きな堰がある所に、排水ポンプを付けて欲しい。可動式はあるが、使うときはみんなつかってしまい、役に立たないので、固定式のものをつけて欲しいと要望している。

委員長：ポンプの設置は、一つの解決策である。しかし、7.11のような水害が来ると役に立たない。ポンプの操作方法も難しい。この地域をどうするかということは優先事項として取り組まなければならない。国の方針が決まれば、北陸地方整備局は、すぐ整備計画を立てなければならない。それまでに多くの意見をまとめることが大切である。関川の基本方針ももうすぐ決まる。平成17年大臣が国会で追及を受けた。その時で方針が決まっていたのは30数河川だけであった。大臣は10年以内に109全部決めると答弁した。現在まで43決まった。関川は、来年の今頃までに方針が出来るだろう。流域委員会は、今年の秋くらいまでに、住民の意見をまとめておかなければならない。全員賛成まではいかなくとも、おおかたの方々がまとまれるようにしたい。

委 員：下流の内水害は深刻である。排水幾場を整備したりしているが、根本的な解決は難しい。流域全体、面で見えていかなければならないと思う。

委 員：勉強不足である。訓練に時間が取られているのが現状である。各町内まで踏み込んで、水に悩まされている地区の悩みの軽減に取り組んで行きたいと考える。水防団という所もある。この辺は消防団であるが、それぞれ、現場で動いてはいるが、悩みの軽減までいっていない。今後それに取り組むたい。

- 委員：下水処理が進み、一時はワースト5にランクされた水も良くなってきている。この水質の状況を住民の方々に知らせていきたい。
- 委員：今まで4自治会をまわってきた。安塚区真荻平地区の方々は、水害から地域を守るため、防災活動をされていた。あめの降る前に川や用水を見回る。春・夏・秋と見回りをされている。三和区北代地区では、河川改修を望んでいる。木ごと土地がぬけていっているということである。それらのことは、解決していかなければならないが、委員長は下流のことも考えてくださいとお話された。このように、流域全体で考えることが重要になってきている。また、防災についても必要である。流域委員会では、防災文化というものを検討している。
- 委員長：北代は川がものすごく曲がっている。まっすぐにしたら下流が困る。それでも、会場から、「まっすぐにしたら下流が困るよな」という発言があった。嬉しいことだった。これからは面で考えていかなければ本当の解決につながらなくなってきている。
- 住民：川はどこから整備するものか。
- 委員長：下流から整備するものである。
- 住民：新井等上流の方ばかり整備しているように思う。
- 委員：それは、災害復旧であるので、被害にあったところの復旧工事である。
- 委員長：自分の恩師が昭和30年ころ、川を整備すればするほど水害被害は大きくなるという論文を書いた。当時の建設省は理解できなかったが、15年前くらいからわかるようになってきた。全体とすれば安全になってきたが、整備すれば安全と思わないでほしい。昭和57年の長崎豪雨では、1時間に175mmの雨が降った。地域の防災力をつけていくのが大切である。
- 住民：それでも7.11水害から浸水していない。豪雨も無い。
- 委員長：7.13水害は中越だったが、それはたまたまである。この地域はあのような雨が降る地域なのである。
- 住民：当面ここは水害がおおきなウエートをしめている。
- 委員：携帯のワンセグで情報は流せないか。
- 委員長：玄倉川で中州に取り残されて亡くなられた事故があった。現在、携帯で増水の情報を流すことを試行している。河川管理用の専門の情報も流している。それが充分周知されていない。ローカルでその土地ならではの情報を流せるようになると良い。そのようなことを、ワークショップでデモをやってみたい。
- 住民：防災無線が役に立っていない。
- 住民：赤倉でダムの放水の時サイレンを鳴らしている。
- 委員長：それは、しなければならない義務なのである。どの程度まで情報が流されているか調べてお知らせする。地元の人がアクセスできる方法を探らなければならない。今日は長時間ありがとうございました。

以 上

関川流域委員会

上越市頸城区西福島2区自治会意見交換会議事概要

日 時：平成18年4月18日（火）19:30～21:20

場 所：西福島二区公民館

出席者：西福島2区11名

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

流域委員会：小林、岡森、横田、保坂

事務局：石田調査第一課長、松崎河川調査係長、三阪研究員

意見交換

町内会長：日ごろの川とか水に対する考え方を聞きたいということで、意見交換会ということである。思っていることを出し合いたい。

住 民：保倉川増水に伴い、瀧川のポンプ排水容量はあるのだが、保倉川の高低差がないので、南川用水の排水が機能しない。アスファルト舗装になり、雨が降ると一気に水が溜まる。年に2、3回は水がつく。保倉川の樋門を一つ管理している。その樋門は保倉川の逆流を防ぐためだけで、排水機能はない。だから住宅地の雨水が溜まる。樋門までの道路がなく、人力でポンプを運んでいるのが現状である。

住 民：桑取りからこちらに来た。水がついた経験は一回。保倉川の分水の話があるが、もう一回大水害になったらやってくれるのだろう。堤防のかさ上げをしてもらったので安心している。

住 民：水に悩まされた経験がないので、無関心なのかなと思っている。

住 民：10何年いるが、10回以上水害に遭っている。7.11の時は床下浸水になった。分水が大きな課題だと思う。

住 民：団地が出来てから、屋敷の排水に油がでる。県道沿いの排水に流れ保倉川に流れている。

住 民：昭和39年から住んでいる。そのころはテナガエビ、ウナギなどが沢山いた。きれいな川だった。もう一度きれいな川にしてほしい。

住 民：子供のころから分水ができると聞いていた。昭和20年ころこちらにきた。裏の川が水がつくと南の田に流す水門があって、その近くに住んでいたので、水がついたら水門を開けて田に流してくれと言われ流していた。7.11の時は床下の風窓すれすれまで水がきた。田にも流していたが、団地の水がこちらにくる。

住 民：56年ここに住む。水害経験は多い。国道8号ができ、水のはげが悪くなった。7.11が一番ひどい。世界的に水害が多くなっているのではなんとかしなければと思う。

住 民：50数年同じ所に住んでいる。保倉川に入って川で遊んだ。冬はスキー場になった。三日月湖があり、釣りをしていた。今は親も子供が川に行くと心配なので「行っては駄目」という。昔のように人が集まる川にしたい。サクラ並木をつくれれば良いのではないか。

住 民：大正時代から住んでいる。宅地化され、すり鉢の中に住んでいるような感じである。防災については無関心ではいられない。しかし、川は癒し、いこいの場だと思っている。

住 民：保倉川上流に住んでいた。川はきれいだった。こちらに来て車庫に土嚢を積む人がいた。自分もそうしなければいけないのかと思う。

住 民：安塚の小黒川の所に住んでいた。ハヤなどがいてきれいな水が流れていた。こちらにきて保倉川はこんなに濁った川だったかなと思った。樋門の問題も含め、今まで水を流していた田んぼを埋め立て宅地となった。浸水は人為的な問題だと思う。

(以上、自己紹介)

- 住 民：今の護岸はコンクリートで行われ、水面から高く、1mもある。大人でも落ちれば上がれない。河川敷がない。水面をもっと近くにできないものか。
- 委 員：これまでは蛇行していた河川を直線にした、コンクリート護岸による河川改修が多かったが、最近は護岸にも配慮した工法が現在行われ始めた。環境に配慮した土護岸など、上越土木事務所等でも行われ始めた。この付近で可能かは即答できないが、そのように変わってきていることを知っていただきたい。
- 委 員：三和区では、河川工事は行われていない。工事を実施して欲しいとのことだった。三和区は保倉川の中流に位置しているが、その場合、真っ直ぐな川にしたら、下流はどうなるのか？と考えている。上流・中流・下流でどのようにしていくのか全体で考えていくことが大事ではないか。
- 住 民：山にも問題がある。昔は水が澄んでいたのに濁っている。川にもハンノキなどがあつた。河川改修ですべて無くなった。
- 住 民：山の保水力を上げなければダメでないか？今では、漁師が山に木を植えている。場所によっては対策が必要ではないか？ここだけで考えてはダメである。
- 住 民：昔、川の水が澄んでいたが、原因はそこにある。そうなれば、雨が降っても水が直ぐに流れてこない。
- 住 民：現在保倉川の水深はどれくらいになっているものか。泥で埋まっているのではないか。いつから濁りだしたのか。
- 住 民：桑曾根川の合流あたりで河川改修後の護岸が崩れている。
- 委 員：関川は櫛池川のあたりから濁っている。
- 委 員：保倉川の上流は地滑り地帯であり、昔から土砂は少しずつ流れていたはず。昔は蛇行していたため、自然堤防にたまっていたものが、今では整備されたために流れているものもあるのではないか。
- 委 員：昭和56年から上越で水質試験を担当しているが、その頃には既に濁っているイメージがある。雨の時は、昔も濁っていたはずである。現在は年中濁っている。しかし、濁っていてもきれいな川もある。アンケート調査結果にもあるが、p22を見て欲しい。保倉川の水質は良くなっている。大きな工場ができてから水質が悪くなったというイメージもあるはずだが、一般家庭で排出する雑排水の影響が大きい。そういった認識がないのではないか。
- 住 民：水質のバロメーターとして、生き物が住んでいるかとあるが、何も生き物はいない。
- 委 員：生き物がないのは水質の悪化ばかりではない。護岸の問題もある。瀬・淵などが必要。流れが速くても生き物は棲めない。そのために、現在は近自然型工法が生まれた。
- 住 民：自然を大事にすること。洪水、災害を考えた時は、自然と相反するのではないか。どうしていくのか？
- 委 員：2004年の中越地方での7.13の水害時には、一ヶ月分の雨が一日で降った。昭和39年以降、国が管理してから、地域が川から離れていった。それは、全て国がやってくれるとおもったからではないか。西福島の地域は、防災力をつけなければならないのではないか。ポンプを設置してもダメではないか？という認識を持ってもらったほうがよいのではないか？
- 住 民：保倉川の堤防が決壊しなければ大丈夫だと思う。心配なのは裏の用水の川である。大雨が降った時には、田んぼに貯めたが、今度はその水をカタ川に流さなければダメでないか？
- 委 員：潟川も逆流している。
- 住 民：潟川を改修しないとダメでないか？田んぼが全て宅地になったから水を吐けないでいる。現在は、天気予報の精度がよいので予測ができる。昨年も国土交通省の排水ポンプ車も設置してもらった。保倉川放水路は、もう一回大きな出水がなければ、

工事ができないと聞いている。夷浜の人もそんなに反対しているとは聞いていない。国も昔と違って、強引なことはしないはず。

委員：保倉川放水路は避けては通れないと思っている。地域の人と話をしていきたい。

住民：西福島2区のイメージが悪い。河川敷で一箇所広がっている。増水時にはそこに土砂が貯まっていくから、イベントなんかできない。きれいにしても翌年には埋まってしまう。川に対するイメージはよくない。そういう結果がでている。上流と下流の結果の差ではないか？

住民：関川は河川敷が広がっている。こちらは川そのもののイメージはよく思っていない。ここの保倉川の対岸は遊歩道が有り散歩できるが、こちら側はそうっていない。

住民：堤防は車を通して地固めしたほうが堤防にとっても良いのではないか。

住民：三菱化成側はアスファルト舗装が施されている。こちらはするのかもしれないのか。

委員：関川は防災の観点で500mごとに回転場が作られている。これは、国土交通省にお願いして、このような形になった。保倉川も可能性があるのではないか。そうなれば人も沢山訪れるのではないか。

以 上

関川流域委員会 上越市頸城区望ヶ丘自治会意見交換会議事概要

日 時：平成18年6月2日（金）19:00～21:00

場 所：望ヶ丘コミュニティセンター

出席者：望ヶ丘自治会13名

流域委員会：梅澤委員、保坂委員、岡森委員

事務局：本田技官、三阪研究委員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

自治会長：関川流域委員会で住民にアンケート調査を行い、今回望ヶ丘についての調査結果を説明させてほしいということである。11年前の7.11水害では、地区の住宅に深刻な被害（床上浸水）があった。今回の意見交換会が直接、治水整備に影響を与えるものではないが、関川流域全体といった大きなテーマ、流域全体の環境、治水について意見できればと思う。

住 民：ここは、7.11水害、実際には12日の午前9時頃、大きな被害を被った。（説明の前に）アンケート結果を見ると、（治水に対して）関心が高い。これは、水害経験がアンケート結果にでていると思う。水害に対する関心だけではなく、新潟のやすらぎ堤のような川に親しむ構造にしてほしい。この付近は安全、安心のため、立ち入り禁止の箇所もある。子どもの頃は川遊びもしたが、今は悪臭がないのが、せめてものなぐさめである。これを機会に具体的に何ができるか非常に関心がある。

住 民：ペットを飼っているので、散歩したりする。やはり環境、ゴミ、ふん害のことが目につく。捨てにくい環境、看板を立てるといったもの以外で、捨てにくい環境づくりをしてほしい。

住 民：7.11水害の時に、被害を受けた。当時は堤防が低かった。ここは宅地が多く、守る対策をお願いしたい。

住 民：災害の関心が高い。激特後の改修が終わったが、その後砂がたまってきている（中州の堆砂が進んでいる）ので、早くとってほしい。上流の整備も進めてほしい。

住 民：7.11水害では、ここは急な水位上昇があり、車を出すのが精一杯だった。そのため水の怖さを感じた。住宅は畳の上50cm以上の浸水で、悲惨な状況だった。県道の西側は水が流れこまず助かった。桑曾根川の改修はされているが、河口まで完全に整備されているだろうか。ダムもどれくらい効果があるものだろうか。

住 民：7.11水害時は、床上70cmの被害だった。避難生活も経験した。午前頃水位があがり、お昼頃にもう一度水位が上がった。現在改修しているが、大雨時に被害がないようにお願いしたい。

住 民：昨年、小学校4年の娘が総合学習として「保倉川探検」と題した学習をしていた。その際、下流から上流の源流までいっしょに散策した。上流まで行くと水が非常に綺麗だった。下流にくるにしたがって水が汚くなる。安全性の問題もあるが、堤防の際を利用できないか？川におりる階段があるところもある。公園など水際を利用できるようにになったらいいと思う。

（以上、自己紹介）

委 員：みなさんのお話を聞いて、7.11水害によるこの地区の被害が大きかったことを強く感じた。

- 住 民：環境が低いのは、この近くの川を知っているからで、あきらめからではないか。
この地域だけでは、どうしようもない。夏には水もなくなる。
- 住 民：水質に関しては、上流から流れてくるものだからしょうがない。泥なのか、にごりがひどい。10～20年前は、ボラなどもいた。ニゴイ釣りもした。
- 住 民：保倉川は昔、黒井の方で、縦横無尽に流れていた。人の手が加わることによって、災害がおこるのでは。
- 委 員：水質の話は、濁りと汚染を区別する必要がある。にごりは地質、特性によるもの。汚染は生活排水が大きな原因となっている。流域全体で取り組むべき必要がある。
- 委 員：濁りが即、水質が悪いということに結びつくわけではない。例えば、中国や東南アジアの川は濁っているが、必ずしも水質が悪いわけではない。しかし、イメージとして、水が濁っていると水質が悪いと思ってしまうのは理解できる。
- 住 民：しかし、やはりイメージとして透明な水の流れる川がいい。
- 委 員：先程、河川改修が進んだため、災害がひどくなったとの意見があったが、蛇行していた昔の方が、濁流に流れにくいなどの影響で周辺の被害はひどかったはずである。その対策として、治水事業で河道を直線化してきた。当時は現在の価値観とは異なり、治水が一番の目的だった。環境については、最近河川法に加わったばかりで、今、まさに方向転換している最中である。
- 住 民：たしかに治水最優先でやってきた。今は地球温暖化や、100年に1回の集中豪雨なども報道されている。治水・利水・環境の三位一体とはいうが、治水が最優先でお願いしたい。
- 委 員：水害が完全になくなるとは思わないでいただきたい。100年に1回の集中豪雨は100年後に起こるわけではなく、今年起こるかもわからない。つまり、いつ起きるかわからないものである。そのため、地域での防災力を高め、保持していく努力が必要だ。
- 住 民：どの程度の川幅、深さ、堤防高さなら、安全なのかわからない。
- 委 員：堤防を高くすると、あふれたときの被害が大きくなるというような潜在的な危険性が増すことにもなる。
- 委 員：流域全体として考えないといけない。三和区北代は、桑曾根川の蛇行している地区であった。そこでは、蛇行している川をまっすぐにして欲しいとの話があったが、川を直線にすれば、上流の水ははやく下流に流れていけよう。しかし、それが原因で下流において水が溢れるということもある。北代の方は自分たちが助かればよいという考えでは駄目だよとお話していた。安全を確保しつつ、環境を整備していくためには、流域全体で取り組みたい。それを理解していただきたい。
- 住 民：7.11水害から11年、まだ頭からはなれない。保倉川が逆流して越水した。保倉川の改修、水害対策の目玉についてなにかあるのか。
- 住 民：分水路の案はあるのか。
- 委 員：現在まだ住民の方の意見を伺って検討している段階。まだ具体的に論議していない。保倉川放水路に関心が非常に高いことは伺っている。
- 委 員：昔の工事实施基本計画にはある。現在国土交通省で検討中の河川整備基本方針では、検討中のため確かなことはいえないが、選択肢の一つとしてはありうる。
- 住 民：川の水が、はききれない。桑曾根川の堤防をもっと高くしてほしい。
- 委 員：堤防整備については、全体のバランスを考えている。堤防が高くなるほど、越水した際の被害も大きくなる。桑曾根川の逆流については、保倉川の影響を受け、保倉川は関川の影響を受け、関川は潮位の影響を受けるため、桑曾根川から逆流

し溢れた水を河道に戻しても、解決するとは限らない。

住 民：調整池というものは、効果があるのか。

委 員：遊水地の効果としては、田んぼもそうだが、都市化が進んでいる影響で減少しており、水の一時保有ができなくなってきた。今後は河道だけでなく面的に考え、流入を防ぐように考えないといけない。

住 民：旧河川跡も利用するなど、考えてほしい。

住 民：一昨年の7.13水害のこともある。保倉川ではどうか。

委 員：堤防がきれいなことは絶対ないとはいえないが、保倉川は緩流河川のため可能性としては少ないと思う。この地域は、内水被害が多い。

住 民：町内を流れる排水路は、保倉川へ排水しているが、雨がふるとすぐ溢れてしまう。

委 員：田んぼがへり、アスファルト舗装などが多くなると、流入量が増える。水は音も立てずに、ひたひたやってくる。水害に対してもこの地域だけでは、対応しきれないと感じる。

委 員：保倉川については、下流では、川の流れは濁っている。上流では棚田が荒廃している。下流から、上流まであわせて考えていけないといけない。

以 上

関川流域委員会 上越市頸城区榎井自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年4月14日（金）19:00～21:00

場 所：榎井集落開発センター

出席者：榎井自治会8人

流域委員会：保坂委員、小林委員、岡森委員、梅澤委員

事務局：松崎河川調査係長、本田技官、三阪研究員

意見交換

住 民：50年前の子供の頃、魚やザッコ（魚）、シジミ取り、水遊びをよくした。その頃の川が懐かしい。今日は同年代や上の人が多いがよく遊んだと思う。今の川はU字側溝になってしまっている。榎井川の用水は昔から重要な用水である。榎井で田植えが終わらないと、下流域は田植えができなかったが、今は用水機場があるのでそういう時代ではなくなった。夏場に雨が降ると水浸しになったが、下米岡あたりでは昨年も三日間、稲が水に浸かった。排水が悪いのが現状である。潟川、保倉川につながって、関川に流れている。関川流域委員にきたんない意見を聞きたい。

住 民：委員会は初めて聞くが、何を目的に活動しているのか聞きたい。

住 民：保倉川の中流域の建設会社に勤務している。生まれは佐渡であり、この地域の出身ではない。人それぞれ考え方は違うが、私は人が生きていく上で、心の潤いが大事であり、川に渡り鳥が飛んでくるところがよいと思う。今はコンクリートで堰堤が造られ、昔はサクラマスやヤマメが上っていたと思うが、人間が自然環境を壊している。

住 民：昔は大根を川で洗っていた。馬も牛も川で洗った。春には皆で川掃除をした。子供の頃は、皆で大事にしてきた川である。今は工場地帯ができ、誰が川を管理するのか解らなくなった。企業と我々の範囲が疑問でもある。皆で大事にしてきたので、管理するものは管理しなければならない。

この土地に60年以上住んでいる。榎井川は幅が広がった。あの頃のイメージがある。タモを持ってコイ、フナ、ナマズを捕った。上流の幅広いところでは、糸を使って魚を捕っていた。4年前区長をしていた時、関川流域委員会、高田河川国道事務所がアンケートを取りたいということだった。この土地は排水が悪いが、水害で避難したこともない。意見を聞くならもっと大変な所を聞くのが良いのではないか。この土地で何故このような会を開くのか聞いてみたい。

住 民：信越化学のあるあたり、雨が降る度、水がつく。水位が上がり、工場に水が入ってくる。製品もダメになったと聞いている。困っているところに親身になってやってもらった方がよいのではないか。アンケートを出したが、保倉の分流点や浜の方で反対の意見も聞く。困っているところにしっかりと予算を組んでやってほしい。

住 民：農業、用水、維持管理、水が重要である。生産調整助成交付率の比重が大きくなっている。国としても用水、河川、維持管理に重きがおかれてきているのではないか。予算がつくかどうか聞きたい。

（以上、自己紹介）

住 民：目的を聞いたが、今日は僅かしか集まっていない。ここは34軒あるが、あまり関心がない。何を目的にしているのか解らない。せっかくの会合なので、できるだけ皆に知らせた方がよいのではないか。ここは、水害にあまり困っていない。農家以外は直接害がない。今後は工夫した方がよいのではないか。今日集まっている人数も

少ないが、目的がはっきりすれば、誘いやすい。事前にきちんとした説明が欲しかった。他の自治区は集まっているのか？

委員：12～13人程度位。多いところで23人位である。人数は気にしないで欲しい。ご町内にお話をして今後の活動の参加を今日出席された皆さんから来られない方々に呼びかけて頂きたい。本日は来ていないが、小池委員長は7,8人でも東京から来ている。今後の参加の呼びかけ方法については、検討させて頂きたい。

委員：今回の趣旨として、アンケート結果を東大の先生に分析してもらった。委員会でも、「川は線でなく面である」そうでなければ、どこかで弊害が起きる。これからは、住民の意見を聞いて整備計画をたてることになっている。偏った意見でよいのか？上流、下流の意見だけでよいのか？総合的に高めるため意見を聞きたい。アンケート結果の平均と榎井地区はどうなのか説明したい。

委員：イメージした川は？

住民：田んぼの用水路しかない。保倉川、潟川なのか？質問の構成の設定で違ったのではないか？

委員：関川の本川から離れた人は、この設問に困ったようであるが、自身の近くの川をイメージされたようだ。質問は「あなたの身近な川をイメージしてお答えください」となっていた。

住民：三面護岸をイメージしているのではないか

委員：意見交換会で初めて伺った妙高市上四ツ屋では、夏場になると川に殆ど水がないという話であった。2番目に伺った安塚では、小黑川が保倉川につながっており、山に近いから、雨が降ると怖いという意見があった。地域で水廻りをされているようだ。地域防災活動を皆でやっている。三和区北代は川が曲がっており、木が生い茂っており、見にも行けない状態。木が倒れ、ゴミが引っかかり河川整備をしてほしいという要望があった。「真っ直ぐの川にした方がよいのでは？」と議論になったが、「曲がった川でもよいね」という声もでた。上越市島田では、7.11水害で関川に堤防ができて安心したとのこと。しかし、川を整備した関係で、勢いよく水が流れるようになり、怖くて近づけないという話も出ていた。

地域によりそれぞれ違っているが、問題を解決するには上・中・下流、流域全体を皆で考える必要があると思った。

住民：要望をお話ししたい。川だけを考えてもダメである。役所の横の繋がりが無い。縦割り行政である。「災害を無くしてもらいたい」、これは、アンケートをとらなくても予想できることだ。治水、利水、環境の流れで、住民も考えていかなければ。心がホンワカになるような川になるのか。海も森が必要とっている。魚がとれなくなり、漁師が山にブナを植えているという。昔は金になる杉を植えるため、広葉樹を切った。杉は根が浅いため、雨が降ると崩れ、災害が起きる。営林の関係者とも話し合わなければならぬのではないかと。行政が横のつながりをもって取り組まなければいけないのではないかと。

委員：流域委員会も必要に応じてさまざまな関係行政とも話し合っていく場を設けることとしている。

住民：委員会としては、地域の意見を聞いて具体的にどうするのか？灌漑用水は、雨が降ると水が溢れる。県に話しをしているが、予算が厳しいと聞いている。そういうことまで、踏み込んでくれるのか。国・県・市に話しをできるのか？

委員：「河川整備基本方針」と「河川整備計画」の二本柱で計画しているが、基本となる「基本方針」は国が作成し、審議会での審議をへて決まる。方針が決まってから整備計画を策定する。国が「整備計画」もたてるのだが、河川法で住民の意見を聞くことも決まっているので、関川流域委員会では地域住民の意見を聞いて、「整備計

- 画」に対し、提言をする。それに基づいて検討し、計画を策定することになる。
- 委員：整備計画の原案ができた所に、委員会が意見を反映させていくことになっている。そのために皆さんに意見を聞いている。頂いた意見は無駄にならないように努力していきたい。
- 委員：この地域は、灌漑用水で集落を蛇行していたようだが、長い歴史の中で、排水で苦労してきたと聞いている。国・県も対策をしている。排水事業もある。保倉川も溢れそうであり、水を出しても関川が溢れそうであり、抜本的なことも必要である。十分行政もわかっている。関川流域の総意で意見を持っていかねばと思う。
- 住民：専門家だから聞くが、きれいな川は清流が流れているイメージがある。保倉川は常に泥水である。
- 委員：保倉川の上流地は地滑り地帯であり、今の状態が普通の状態と思った方がよい。四国の四万十川を求めるには無理がある。
- 委員：昭和30年代は保倉川も澄んでいたイメージがある。原因は何かと思う。そういう問題は共有していかないといけない。
- 住民：私は地滑り地帯で働いていたが、現在、地滑りは起きていない。森林の荒廃があるのは、広葉樹を切って杉を植えて、管理しないから荒廃している。今現在、「国土を守る」ということが抜けているのではないか。だから、先程、行政の話をした。
- 委員：砂防堰堤等工作物が砂防、地滑り対策と思いがちであるが、本来の対策は山に木を植えて保全していくということである。
- 梅澤委員は、7/13水害の時に応援に行った。今は、気候が変わり集中豪雨が起きている。堤防ができた。だから安心とは思わないでほしい。皆で地域を守る。防災力を念頭に入れていただければと思う。災害のない榎井地区から、今日のような意見も聞いた。今後もフォーラム、会合など、色々な場所でご意見を頂きたい。P 29にも書いてあえるが、「見学会」「ワークショップ」に参加してほしい。9月にフォーラムを開催し、一般の方々に発表していきたい。
- 区長：今日はありがとうございました。説明を伺い討論をしていただいた。今後、それぞれの立場でがんばっていききたい。

以 上

関川流域委員会 上越市三和区北代自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年4月2日（日）14:00～16:00

場 所：北代集落開発センター

出席者：北代自治会15人

流域委員会：小池委員長、梅澤委員、横田委員、保坂委員

事務局：石野河川管理課長、岡崎河川計画係長、三阪研究員

意見交換

自治会長：平成15年に実施したアンケート結果のうち、当自治会の特徴を説明していただく。日頃、川や水に対し感じたことや意見を率直に述べていただきたい。桑曽根川に対する要望等も出されると思うが、宜しく願いたい。

委員長：意見交換会の前に北代周辺の現場をみてきた。大間城址、北代ぶどう園、桑曽根川沿いを上流に登り坪山周辺、降りて山沿いに一周させてもらい、日本の原風景的な景色を楽しませていただいた。皆さんから、この地域に住んでおられて好きなところ、困るところなどの特徴をお聞かせ願いたい。

住 民：全く平坦でもなく、全く山間地でもなく、適度な丘陵地であり、里山という感じが良いと思っているが、桑曽根川の沿川であることが一番困っている。今後、一考していただける方向に行けばよい。

住 民：周辺の町場と比較して、山菜やキノコ取り、山遊びなどの趣味がなんでも持てる場所であり、非常に良い場所であると感じている。

委員長：お祭りは何かありますか。

住 民：風巻神社の祭りが毎年8月に開催される。氏子として神社を中心とした信仰的な精神のつながりが大きいと感じている。

委員長：環境面で関心をお持ちでないか。

住 民：ぶどう園あたりの山で掘られた地下水は良い。

住 民：水に関しては良い水である。

阿弥陀寺池は17万～25万トンの貯水が可能であり、干ばつであっても三和区内で稲作用水をどうにか確保しているのがこの地域である。

桑曽根川の川幅は公正図からいくと広いが、曲がっているために何とかして欲しい。桑曽根川の改修は沖柳から上流は行われていない。一時も早く改修を行って欲しいと思っている。

耕作者は7件程度であるが、田は1町歩規模への圃場整備が10年をかけて行われており、もうすこしで完了の予定である。

180町歩の田の水を大切に使うということで、循環式の装置をつけており、一年の耕作を行ってもため池の水はあまり減らない状況である。

委員長：里山としての良さ、山地の水質の良さ等が把握できたことと、桑曽根川の整備が一つの課題であることが判りました。

住 民：桑曽根川はゴミが流れてくるなど環境が悪い川であり、早くから改修を要望しているが、予算の関係等から改修が進んでいない。関心がない理由として、川沿いで遊ぶことができる状況になく、愛する訳にはいかない川となっている。改修が行われ

れば改善されていくと思う。

住 民：先生の方から桑曾根川の改修を直線化する方が良いのか否かを地域で検討してみてはどうかという話があったが、現状をある程度活かしながら直線化を図っていくべきと考えている。

委員長：水害多発地では、川を直線化しないとこれを防ぐことが難しいが、水害が起こらないところは、曲がっていることで流れの緩急や浅瀬・深み（淵）が形成され、生態系や環境面で良好となる。メダカが減少した理由としては、農薬が第一の原因ではなく、河川が直線化されたことで稚魚の住める場所がなくなってしまったことにある。河川環境を考えると曲がった川を保全することの方が良い。皆さんが議論しながら考えていくことが良い。

住 民：桑曾根川は蛇行が激しく、植樹された河岸林が倒木して川の流れを塞いでいる。水害のないところは蛇行していた方が良いという考えがあるから、桑曾根川の改修が進まないのではないか。

委員長：このような考えは最近でできたものであり、一部の河川では自然再生事業等で試行的に取り組みられている事例もあるが、まだ全国的な施策とはなっていない。

桑曾根川は整備が進んでいないが、これから整備が進む時にどのような川にすれば良いのかということや皆さんの意見を聞きながら整備をしていくということになった。どのような姿が桑曾根川にとって望ましいのかを色々な側面から皆さんで検討して欲しい。直線化した川は元の姿に戻りません。

河川の蛇行を防ぐため、土地を固めるため、河岸林が植えられている。今はコンクリート護岸などで川を固定することができるが、生態系にも影響を与える。

住 民：桑曾根川の北代側は、対岸と比べて地盤が高いが抜けやすい。また、粘土質であるので河岸林が風であおられると根が浮き、水が含まれ一緒に抜けてしまう。

樹木の良さも判るが、今の時代ブロック張の護岸や直線化などの改修を行ってもらわないといけない。

子供の頃は川の水がきれいで白エビやハヤを網で採ったものだが、桑曾根川には北代側から急勾配で降りられなかったため、対岸から降りていた。今は、危険なので誰も川に近づかない。

住 民：P 28の総合評価のところ、北代は安全・親しみ・好ましいが低い結果となっている。これは比較的水害がないことから関心もないし、川への親しみもあまりないが、この辺りの桑曾根川は蛇行しすぎであり、一年も経過すれば川の形が大きく変わってしまう。

委員長：河川敷を越えて流路が移動するのでしょうか。

住 民：はい。

年に一度、河川のクリーン作戦を実施して欲しいと依頼が来るが、川の近くまで行けないことと危険であることから断っている。

委員長：蛇行の移動が激しいと土地の管理が困難となるため、これを止めなければ行けない。床止めなどの工事を行うと川の移動が抑制される。これも一つの選択肢である。いろいろな技術や知恵、経験的なことを集めて、皆さんがどのような姿が望ましいかを最終的に出されることが望ましい。このような状況は地域によって違いがあり、P11で説明する。

住 民：好ましい川の姿になりたいし、したいが、財政事情もあり改修もままならない。今回のアンケート結果を踏まえて、桑曾根川の改修を促進させて欲しい。このままでは10年15年も改修が先になってしまう。

委員長：平成9年の河川法改正をうけて、河川の基本的な方針を国が策定し、河川整備については住民の意見を聞き北陸地方整備局が策定することとなる。皆さんの意見を聞くということが法律に盛り込まれた。

関川河川整備基本方針については、今年から来年の初めには策定されると考えている。その後、河川整備計画を策定するために皆さんの意見を求めていくこととなる。流域委員会は皆さんの声を流域全体の声として整備計画に反映させるために設置されたものであり、この様な調査を行い、皆さんの意見を聞き、どの様に好ましい川づくりを行っていくかの方策を考えており、整備に反映するのはあと一年位である。

住 民：これまでの桑曾根川の改修の経過をみても長年かかると思うが。

委員長：河川の整備順序は基本的に下流から改修を進めることとなるが、河川環境の整備の順序についてはその限りではない。どこからどの様に進めるかの議論が整備計画であり、一年後にこの地区が整備されるという事ではない。

住 民：整備計画の中で位置付けられれば良いが、今の状況では何時になるか判らない。7年前に測量と木の立ち会いが済んでいるが、それ以降全く話がされていない。この様な状況から10年先、20年先であるかとの疑問を抱いている。

委員長：河川の管理には国や県などがあり、109水系の河川整備基本方針・河川整備計画の策定は国が管理する河川についてである。桑曾根川の測量まで行った結果について、今後どうなるかを住民に知らせなければいけない。流域委員会から河川管理に申し伝えることはできる。

整備が遅れているという理由は財政が限られてきているため、選択的にやらざるを得ない状況になっている。この様な時に住民の方々が積極的に意見を申し述べることが重要である。

住 民：道路橋の改築に際し、河川の改修法線が決まらないため手を付けられないと言われて15年が経過している。河川改修が道路改築に影響を与えているということを認識して欲しい。

住 民：桑曾根川の周辺は圃場であり、蛇行自体が地域に対して悪影響を及ぼさないと思うが、維持管理面でなかなか県もできない、地域がボランティアなどで対応するところもあるが、地域住民も高齢化していることから負担も大きい。河川管理者としても何らかの手だてを考えていただければ、地域としても蛇行河川を保全することでも良い。

委員長：そのような維持管理面についても河川整備の基本的考えに含まれるのでお話いただきたい。

また、蛇行 直線化による下流への洪水影響についても計算が可能なので、上下流で相談していただきたい内容である。

地質が悪いことから、ダムによる洪水処理は選択肢から外れるが、保倉川下流地域の水害常習地帯のことを考え、環境面を考えて率直な意見をだして欲しい。

住 民：農業集落排水事業の処理水が桑曾根川に排水されているが、汚染等の影響はあるのか。

委 員：維持管理も行われ水質の排水基準も定められている。有害物は一切流していない。魚を食べても影響はない。

委 員：この様な機会ですので、改修方策や維持管理面での工夫などについて、具体的な議論をこの地域でまとめていただくのが得策と思う。今後の要望としても活用できる。

委 員：北代周辺で10年程度水質調査を行った背景には、きれいなため池や地下水が汚染される危惧があったことから検査が始まった。検査を進めていきながら農業集落排水事業も整備されてきましたし、不法投棄の問題など改善されていったと考えている。皆さんがどの様にして欲しいという声を上げていくことが、地域の整備が進ん

でいくことにつながると考える。機会ある毎に話しを聞かせていただきたい。

住 民：本日の説明を地区の皆にPRしていきたい。

委員長：住民の意見を聞きながら河川整備計画を定めることとなっているが、そのために河川整備基本方針が定めなければならない。関川の場合ここ1年程度で定められる予定である。

委 員：川の見学会等に参加していただき、色々な状況を見ていただくことにより、意見が出ると思うので宜しくお願いしたい。

委員長：今後、川の見学会やワークショップのご案内をするので、積極的に参加をしていただきたい。

以 上

関川流域委員会 上越市浦川原区上岡自治会意見交換会議事概要

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

日 時：平成18年7月2日(日) 19:30~21:30

場 所：上岡ふれあいセンター

出席者：上岡地区12名

流域委員会：保坂委員、小林委員

事務局：松崎河川調査係長、三阪研究員

意見交換

- 委 員：上岡(の皆さん)は、どの川を思い浮かべてイメージしたかも伺いたい。
- 住 民：猿股川をイメージした。
- 住 民：生活用水が直接川に入る。農業用水も直接はいる。地滑りの山であり、雨が降ると直ぐに濁る。濁りや汚染は化学物質か泥水の影響かで違う。清流を基準に考えたが、ここは清流ではない。
- 委 員：浄化槽は合併浄化槽か？
- 住 民：合併浄化槽である。現在、個々に合併浄化槽に移行中であり、完全には終わっていない。浄化槽を入れ始めたのは、ちょうどアンケートの時期(H15.10)くらいであった。
- 住 民：平成16年に安塚でアンケートの説明会があって出席した。その時に猿股川についても話しをした。河川改修については、猿股川は半分程度しか整備されていない。保倉川まで1.5km位残っている。ほくほく線の工事で水量が減った。トンネルの出口から相当の水が出ている。それが影響して、水量が減ってきていると思う。川はわりと緩やかで、ある程度の勾配と水の量で、濁り、淀みがあり、水質に関連にしているのでは？
- 委 員：季節で水量は変わるのか？猿股川の水を田に引いているのか？
- 住 民：季節によって、水量は変わる。融雪時期は多く、夏場は少ない。猿股川の水も使うが、主に天水、山のわき水や、沢の水を使ったりしている。
- 住 民：下流は河川改修されているが、川の幅より川が流れている幅が少ない。見た目も良くない。川の中に川があるようだ。
- 委 員：三面張護岸の前は、どのような川だったのか？
- 住 民：三面張ではなく、二面。今の1/3くらいであった。
- 住 民：昔は川で遊んだ。今でもホタルが飛んでいる。
- 住 民：普段は、あまり流れていないけど、雨の日は多く流れている。川は大切だと思った。
- 住 民：昔は洪水常襲地帯であった。床上浸水もあった。だから河川改修が行われた。
- 住 民：河川改修済みの地域と改修前の地域があるため、アンケートでは、現在のことを書いているので、評価が分散しているのではないか？
- 住 民：私は他所から嫁いできたので、何でこんなに大げさな川を作った(改修)と思ったが、住んで始めて大事な川であると思った。小さい川でも、どこから水が集まるのかと思うほどすごい。アンケートでは、身近な川を思い浮かべた人や関川を想って書いた人がいると思う。

(以上、自己紹介を兼ねた意見交換)

- 住 民：回答で「親しみ」「行動」が無しとなっているが、昭和39年後に猿股川が一級河川となった。それが影響しているのではないか。昔は家に入るのにも自ら橋

を架けてやってきた。それが、工事をやるのが国であり、県となり、川に関わることを勝手にしてはいけないということになり、誰も草を刈ろうとはしなくなってきた。「魚もいない」となっているが、実はいる。川に行って見てないだけである。猿股川には堤防はなかったが、今では軽トラックで走れるようになり、散歩などして様子がみられるようになった。関川、保倉川では散歩ができる。信濃川のやすらぎ堤のようになれば、関心も高くなるのではないか。川のそばで「あじさい祭り」を集落で行っているが、誰も川のイベントとは思っていない。

委員：聞いていて、川の知識が高いと感心した。昭和39年の河川法の改正、というより新河川法の制定で、水系一貫の河川管理体制に移行した。一級河川の河川管理者は国土交通省（当時は建設省）であるが、この場合は県である。このような河川管理主体の変更と、法規制によって河川と住民との距離が生じたということ、肌で感じているのはすごいと思う。本質を掴んでいる。平成9年にこのような問題意識から、国交省が危機感を持ち河川法を改正することになった。

委員：昭和39年頃から見れば生活も変わったと思う。保倉川中流の河川敷の近くで育ったが、牛・山羊を川で洗ったり、草を刈ったりしていた。日常生活と環境がリンクしていた。上流の森林保全で中・下流に水が出なかつたり、下流の水害も上流部では関係ないわけではない。安塚の真萩平においても棚田の話があった。「天水田」と呼んでいる。棚田が雪解け水を貯め、じわじわ下流に流し、天然ダムとして効果がある。放棄した棚田もあり、その田は崩れる。地域住民が見廻りをして、状況を確認しているという話を聞いた。

住民：昔は子供がザルをもって川にオロチヨを捕りに行った。今は河川改修で堰も多く、鮭も昇ってこなくなった。子供がいなくなったせいもあるが、川から離れ、生活から川が離れていった。

委員：河川法の目的に環境が加わったことからわかるように、最近は環境にも配慮した多自然型工法のような河川改修も進んでいる。急に河川環境が良くなるわけではないが、行政も問題意識をもち、徐々に変わっていることも知ってほしい。

委員：上越市島田で、7.11水害で堤防が整備されたが、川が勢いよく流れており、川に近づきにくくなったそうである。しかし、これからは、模索しながら皆から親しまれる方法に向かうと思う。河川法は先進的な法律である。住民の意見を提言できる。役に立っていくと思う。

以 上

関川流域委員会

上越市牧区高尾地区自治会意見交換会議事概要

日 時：平成18年6月14日（水）19:30～21:30

場 所：高尾活性化センター

出席者：高尾地区9名

流域委員会：岡森委員、保坂委員、横田委員、梅澤委員

事務局：松崎河川調査係長、三阪研究員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

自治会長：意見交換会の開催時期については、3月に山本係長か来て、4月に行うこととしていたが、本人が転勤となり、田植えなどで延び延びとなった。意見交換会の開催が遅くなったが、意見交換ということで始めたい。

住 民：建設業をしていた。日頃から関心を持っている。アンケートの説明を聞いたが、高尾の地形は、一級河川折居川の上流に位置している。折居川の状況を日中に見てもらえれば解ると思うが、夜間に県道を走っただけではわからない。13年前に折居川と飯田川の合流点から上流を歩いて写真を撮り、土木事務所に提出した。飯田川は浅い。折居川は渡れないくらい深い場所もある。アンケート結果を見ると、深い・幅が狭い、魚がない、など正にそのとおりである。川が深いので地滑りも多い。一時より水はきれいになったと思う。川に対する親しみは、せまい・深いとあり、あまり関心はないのではないか。折井川にそった地滑りが問題である。川といえば、地すべりが思い浮かぶ。最近は色々な観点から要望しても何もしてくれない。しかし、地域の住民と携わって交流があることを感謝したい。昔は（行政が）把握できないことが色々あったのではないか。

住 民：川に対して、子供の頃は川がきれいで、ホタル、ササガニも多く、遊びによく行った。現在は、川遊び、水遊びは危険性があるので、子どもには川に近づくなと教育している。昔は、水質も良くホタルが多く飛び交っていた。水質も昔には戻っていないと思う。一時期川はゴミ捨て場のようになっていたが、今はゴミの収集業者が対応しており、そのときよりは良くなった。7.11の災害時の時は、建設会社に勤めていた。新井の被災現場に向かった時、田んぼに岩、流木が流れ込んでおり、川は恐ろしいと感じた。アンケートに堤防の高さが、高い・低いとあるが、7.11の時は、堤防が高かったけど被災した。堤防で土のう積みも経験した。災害の恐ろしさと治水の大切さを感じた。

住 民：資料がきれいである。川に対する関心は、折居川をイメージして書いた。保倉川、関川と比べ、イメージが全然違う。ここでは、地滑りが一番である。役所に川のお願いをしても無理である。高尾でアンケートをしてもピンとこない。水害で川が溢れることもない。ここでは地滑りが多い。

委 員：折居川をイメージしていたと思うが、それでよい。自分たちの川を感じ、他の地域がどう思っているのか知ってもらおう。下流の人がどう思うのか、上・中・下に意見を聞いている。下流には上流の話もしている。関川・保倉川でも考えがちがうことを知ることも大切である。そうやって、関川流域がどうなのか知ってもらえばよい。折居川の話も聞いた。地滑りのことも聞いた。これを下流に伝える。是非、きたんないご感想を賜りたい。

- 委員：地滑りがアンケートの項目になかったのは、このアンケートが高尾のみを対象としたものではなく、流域全体を対象とし、最大公約数となる項目を選択したからである。高尾の方には必ずしもすぐはない項目もあったかと思うが、その点をご理解頂きたい。
- 住民：2年前に折居川の高尾～柳島の間で、一箇所、地滑りがおきている。土木事務所に見てもらっているが、杉林であり、農地となっていないため、その箇所はそのままの状態である。雪解け、泥水で水が濁っている。上越市・牧・国の連携で実施してもらいたい。既存の堰堤が土砂で埋まっている。
- 住民：年は70才。農家であり、棚田で米を生産している。折居川から農業用水はとっていない。雪解け水を貯めたものが棚田。雪解け水を貯める。川に対してのイメージは、雪解けの黒く流れるイメージしかない。7、8才のころは、よく水たまりで遊んだ。孫は川に行かない。よい子は川に行かないことになっている。
- 委員：安塚の真萩平においても棚田の話があり、「天水田」ということを勉強した。棚田が雪解け水や雨水を貯める、天然のダムである。真萩平町内では、放棄した棚田もあり、その田は崩れる。地域住民が見廻りをして、状況を確認しているという話を聞いた。
- 住民：ここでもそうである。冬に備え、ゴミを取ったり、絶対見廻りをしないといけない。春には、集中的に川に流れるので地滑りがおきる。雪も多いところである。今年は418cmもあった。津南の方（長野県栄村）でよく放送があったが、この方が多い。5月3日にやっと0cmになった。去年は4月25日であった。雪解けの地滑りが多い。こういう意見を聞いて、国交省は何か要望をしてくれるのか？この地域より、上には誰も住んでいない。こういう地域と意見交換して何かあるのか？
- 委員：河川整備基本計画の中に、地域の意見をとりまとめ提言していくという役割がある。川だけの整備だけでなく、流域で計画できないか、棚田、森林も入れて、提言できないか、と考えている。河川法は先進的な法律である。住民の意見を提言できる。役に立っていくと思う。
- 住民：雨降ったり、雪降ったり、水が寄ってきて折居川に入る。今の時期（晴れの日）は、殆ど流れていないが、雨が降ると一気に流れ出る。その結果、山が掘れて、地滑りがおきる。
- 委員：関川流域の中でも、大事なところである。下流の人は、上流のことをよく知らないことが多い。
- 委員：地滑りは増えているのか？
- 住民：牧区のうち、75%が地滑り指定区域となっている。川が深いので、川が原因とっている。堰堤や川が広くならないようにしてきたが、地滑りは川が原因と思う。地滑りの数は、昔から同じだと思う。
- 委員：「子供の頃はきれいであった」「最近はずいぶんきれいになった」との話があったが、そのとおりだと思う。これからの時代は、「国から面倒みてもらおう」という考えはやめたほうがよいのではないか。モラルに訴えていくことが重要だと思う。この地区は、メダカの保護に取り組んでおられるが、それをアピールして訴えれば不法投棄はなくなると思う。洗濯の際には、洗剤や水を多く使っているはず。田んぼも除草剤を使っているはず。これらも川を汚している。個々で考えていかないと変わっていかないとと思う。
- 委員：P29にも書いてあえるが、「見学会」「ワークショップ」に参加してほしい。9月にフォーラムを開催し、一般の方々に発表していきたい。
- 住民：今の状況、過疎化現象をお話ししたい。川や沢をきれいにしたいと思うが、人がいなければできない。どんどん広域合併し、今はその弊害が出ている。山に住まなく、

平場（平野）に出て行く。ますます、山が荒れてくると思う。大問題になるのではと心配している。

住 民：平成 8 年から、県の職員による棚田サポーターとして力を借りている。用水をひく側溝は、土側溝のため、ベンチフリュームを入れて、地滑り防止を図っている。今年 7 月 1 日に行うので、もしよかったら、手伝いにきてほしい。

以 上

関川流域委員会
上越市安塚区真萩平自治会意見交換会議事概要

日 時：平成18年3月25日(土) 13:30～15:30

場 所：真萩平集落開発センター

出席者：真萩平自治会6人

流域委員会：小池委員長、梅澤、小林、保坂

事務局：二木調査第一課長、山本河川調査係長、岡崎河川計画係長、三阪研究員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

委員長：質問があれば受け付けます。

住 民：どのような目的で来られたのかははっきりわからない。なぜ、今回開かれているのか？

委員長：P2を見て頂きたい。(河川法改正の話)

H9までは、行政が川の整備の取り決めを行っていた。H9後、基本の方針は国がつくるが、計画は住民の声を聞きながら立てることとなった。そのため流域委員会が設置された。住民の意見を聞くにはどうしたら良いか検討しアンケート調査を行った。そして今日は、その結果に基づき、ここの自治会の特徴についてのご説明と、川についての意見を伺うために来た。上流の方が何を考えているか、また下流の方が何を考えているか、みなさんと一緒になって考えていきたい。P2について、二つ変わった。管理者が変わり、目的が変わった。H9の改正で環境が目的となった。

委員長：アンケートでは、治水の行動についてどのようなことを聞いたかという、「避難経路を調べる」「水防活動をしている」などを聞いた。この地域の方々は、水防活動が積極的なのはなぜか。

住 民：この地域は大小の地滑りが多々ある。地滑りの大きいものは、県や国が対処するが、小さい地滑りは町単位でやっていた。小さなものは、みんな一緒になって、機械を使い、道路の土砂をどかす、杭を打って止めるなどを自らしている。

住 民：これから融雪に向かい、田の畦がこわれる。自分たちで修復する。小さな事を自ら参画しているから、行動をしている結果となったのだと思う。

委員長：田が深いのはなぜか。

住 民：秋、乾田すると、ヒビが入るが、深いとはいりにくい。

住 民：この地域は天水田(てんすいでん：水源を持たず、もっぱら雨のみに依存する水田)で、雪解けの水をためるので水深が深い。

住 民：雨が降り始めると、用水や田んぼの見回りをする。ヒューム管に枝や葉がたまると溢水するのでゴミをどかして歩いている。後になって大変な災害になる前に、見回って未然に防ぐようにしている。また、降雪前に秋の落ち葉が用水に貯まるので、取り除く作業をしている。このような小さな行動がアンケート結果にでているのではないか。

委員長：この20～30年間、水が悪くなってきているのか。

住 民：25年前にここに来たが、それから現在まで水質が悪くなったとは思わない。

住 民：60才だが、小学校の頃は川が遊び場だった。魚を捕まえたり、泳いだ。そのころは水が澄んでいた。田が崩壊して地滑りがおき、1年中泥水になっている。水量も減った。田んぼが保水していたが、今は水が少なく、川に藻が出てきた。背骨が曲

がった魚も見る。

住 民：昔はかじか蛙がいた。一時はいなくなったが、最近はまだ鳴き声が聞かれるようになってきた。

委員長：世帯主を選んだこともあり、回答者の年齢が高かったこともお含みおき下さい。

委員長：全体の感想はどうか。

住 民：今このような会を開いているのは、川の支流まで良くすることで、川全体を良くするために行っているのか。

委員長：まさにその通り。支流の水がきれいになることで、下流も良くなる。棚田を事前に修理していることが下流に良い影響を与えている。これからの川は点とか線でなく面で考えていく必要がある。水害についても、水害を減らしていくためには、流域全体で考えなければならない。

住 民：水体系も考えなければならないと思う。かじか蛙がなぜいなくなったか。大水になって下に流される。しかし、10mもある堰堤があり、上がって来れない。魚の住みやすい川にしなければならない。

住 民：昔は蟹・かじかがいた。食べていた。現在はハヤなど夏は水質が悪く食べれない。

住 民：水質は地滑りで濁る。

住 民：検査していないので見た目で判断している。水質を守るために合併槽を入れている。

委員長：濁った水は水質が悪いと思わない方がよい。日本は澄んだ水がきれいと思っている。外国では澄んだ水はあまりなく、粒子の関係で大体が濁っている。そちらではきれいな濁った水、汚い濁った水という判断をしている。日本は清い水は澄んでいると思っている。

住 民：支流、水たまりにホタルは多くいるが、まだまだ少ないという気がする。

委員長：支流まで水質調査をしていないので、支流まで調査をするという提案もあって良いのだろう。

住 民：P11の表をみると、保倉川上中流は、評価の点で安全の方に行っている。親しみやすさは、具体的にはどんなことがあるのか。平成19年度から農地水環境保全対策があり、お金がくるので有効活用したい。

委員長：どのようなことから親しみやすさにつながるのか、どのようなことで、親しみにくくなるのか、アンケート結果より調べて答える。上四ツ屋は、水辺の広場でバーベキューを行い親しみやすいと言っている。

住 民：民泊で年3回、都会の子供を泊めている。危ないからといっても、川に遊びにいつてしまう。田舎体験をつづけており、川が好きなので、1回は川で遊んでバーベキューをすれば、子供も喜ぶし、食事が1回ぬけて宿泊させる方も助かる。なにしろ子供は、川遊び、火が好きである。杉っ葉を焼いて、芋を焼くことが好きである。こちらでは何とも思わないことまでも。

住 民：こんなに近くに川があるのに、地域の人には行かない。町の人には水が楽しいのである。川についてもっと関心を持たないといけない。関心を持ってもらうために川でイベントをするのが良い。川蟹など高校生まで好きである。町にないものを求めてここへ来る。

住 民：都会でやれないことを非常に喜ぶ。子ども達は、山の農道を通って、高いところへ行くことが好きのようである。

委 員：P26のようにこの地域の方々は、川は自然的で季節感があると思っておられる。そして春や、秋の作業として川や田んぼの見回りをされておられる。

委 員：平場でも田んぼがあると、定期的な管理（道普請、用水管理）を行っている。その

地その地で自ら行っていることがある。

委員：雨の降る前など住民で田んぼや川を見回りしておられることを、下流の方では知らなかった。

委員長：みなさんの体験で得た感動を多くの地域の人に分けて欲しい。それぞれ下流は上流を知らなかったりするので、できるだけ、お互い上流・下流を知る機会を持つ必要がある。

以 上

関川流域委員会 上越市大島区細越自治会意見交換会議事概要

日時：平成18年5月29日（月）19:30～21:30

場所：細越センター

出席者：細越自治会8名

流域委員会：保坂委員、梅澤委員、横田委員、岡森委員

事務局：石田調査第一課長、三阪研究員

本資料は出席した流域委員が受け止めた内容をまとめたものである。記載されている意見の内容については、自治会の承認を得ている。

意見交換

自治会長：本日は10人ぐらいの予定。よろしくお願ひします。

住 民：大島区は保倉川の上流であり、水はここから流れる。水を汚さないように合併処理浄化槽を設置してきている。普及率は70%である。関川水系は広い。細越集落は何で選ばれたのかと思う。川をきれいにしていきたく思っている。浦川原地区に農業用の堰堤がある。あれが設置されてからヤツメウナギ、サケがあがってこない。魚道がないため、頸城用水組合に魚道設置の要望をしている。現在都市との交流で小中高生を呼んでいる。川をきれいにして小中学生に遊んでもらえるようにしていきたい。

住 民：保倉川の昔の面影が無くなった。一時汚物を流すこともあった。今は合併処理浄化槽が整備されつつあるので、よくなっていくのかなと思う。

住 民：12人ぐらい呼ばれた会議があった。細越集落では合併処理浄化槽が12～13年ぐらい前からできてきたが、その前は曲がった魚が見られた。今は薬品が良くなったのか曲がった魚は見なくなった。

住 民：川の側に移転してから40年。昔は堰があったが、今はない。川が深くなった。前は岸から1.5mの深さのところに水面があったが、今は2間梯子をかけても降りられない。今日は勉強していきたい。

住 民：30年前から住んでいる。川はきれいだった。とった魚を刺身で食べたが、今はしない。当時は泳いだりもした。今日は勉強していきたい。

住 民：平成9年に引っ越した。川底が深くなって、川に降りられない。どうしてこうなったのか解らない。堰堤が無くなったからなのか？

住 民：保倉川と田麦川の合流点に住んでいる。昔は川でよく泳いだ。最近合併処理浄化槽ができてきて、川はきれいになってきたと思うが濁りがある。下流の水質の調査結果を教えてもらいたい。

住 民：昔は川で遊んだ。今は川が深くなった。堰堤が無くなったせいだと思う。川底に堰堤を作れば良いと思う。

（以上、自己紹介）

住 民：アンケートをもらったが、みんな関川の事であった。保倉川の事が無かったので、アンケートで困った。

委 員：平成15年のアンケートにはクイズがあったが、関川の事ばかりであり、流域委員会としても反省している。

住 民：関川水系といわれてもピンとこない。保倉川と書いてない。この調査は環境面だけなのか？

委 員：環境と災害について調査している。今回も両方の話しをする。大島区代表として話しを聞かせてもらいたい。

- 住 民：川の水質の検査をやっているみたいだが、安全性はどうか？
- 委 員：S40年代から50年代にかけた一時期、水の汚染が進んだ。その頃と比べて今はきれいになってきている。しかし安全性については、どう考えるかといった主観や川との付き合い方による。川に入って遊ぶ程度には問題ないと思うが、飲んだりするのはダメである。今は洗剤などの化学物質が増えていたり、使う水の量も増えている。食べられるかについては、単純には言えない。一年魚のアユと生物濃縮している魚とは違うが、1，2回食べる程度には問題ない。
- 住 民：大きな堰堤をつくっている。それはそれでいいが、小さな頭首工みたいなものを作ってもらえれば、川底が下がらないのではないかと思う。
- 委 員：川底（河床）が掘れ安定しないというお話しならば、頭首工ではなく床止めが必要でしょう。しかし、だからといってこの場で即「そうする」とは言えないことを理解してもらいたい。それは一部の工事が他に影響を及ぼすことがあったり、財政のことも考えて、他とのバランスも考える必要があるからです。
- 住 民：昔は木でできた沈床をやっていた。今はコンクリートの擁壁を作っている。あれも川底が掘れる原因ではないかと思う。クリートでなく木材を使っていく方がいいのではないかと思う。
- 委 員：関川ではコンクリートを使わない工法を試行錯誤している。少しずつ変わってきている。今は過渡期。
- 住 民：川底が掘れるのはこの地域だけ。ここより下流は掘れていない。4 km程上流では土がたまっている。流れと曲がりの関係だと思う。
- 住 民：アンケートでは川のカーブが多いと書いてあった。今までは土の壁だったのが、今はコンクリートである。
- 住 民：道はカーブの内側を下げるが、川は反対に内側を挙げてほしい。
- 住 民：カーブに堰堤を入れてほしい。
- 住 民：細かく堰堤を入れてほしい。災害関係の考えは地域によってちがう。環境関係では、今から65年くらい前、魚がすごく多かった。今は魚がすごく減った。今はハヤだけ。昔はいろんな種類がいた。災害の工事の仕方が問題だと思う。今回の調査結果にも疑問がある。川が澄んでいるというのは納得いかない。50%くらいは濁っている。単独浄化槽では曲がった魚はいたが、合併処理浄化槽になったら少なくなったと思う。工事関係者が番線を捨てた。川にはいるのが危ない。
- 住 民：昔は川が浅かったが、今は状況が変わった。前は水が出ると床下浸水したが、今は川が下がったので浸水は無くなった。避難場所は指定してあるが、みんな知らないような状況である。水害はあってはならない。
- 住 民：川が下がって困るのは、いざというとき消防ポンプが届かなくなった。大切にしたいのは、清流。昔に戻したいのが願いである。大ぶけ用水の堰堤に魚道を造ってほしい。河川改修を両岸でやってほしい。
- 住 民：水利権に問題がある。大ぶけ用水が水利権を持っている。農業用水に使っているが、市町村が負担金を出している。なんで出さなければならないのであろうか？解消してほしい。
- 委 員：水利権は難しい。
- 住 民：われわれはきれいな水を流そうとして、合併処理している。なんとかならないか？
- 委 員：流域全体を考えていくのに声を上げてほしい。

以 上